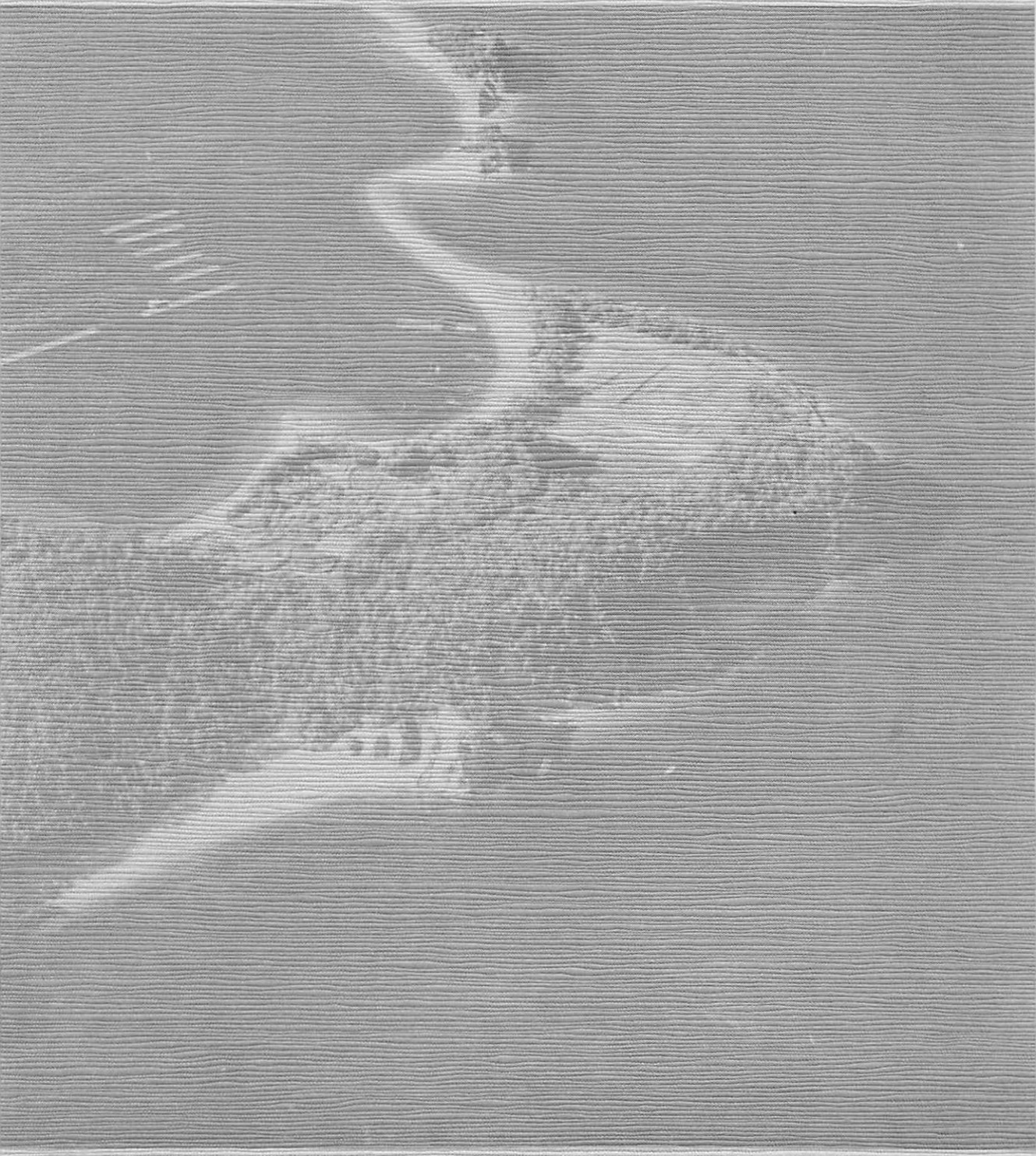
第8回RYLAセミナー報告



You are the key

もくじ

発刊によせて　濱川金兵衛……1

金子太郎……3

ディーンより一言　深川純一……5

セミナースケジュール

講演　現代から未来へ（21世紀へむけて）

日本・世界の食料・農業問題と
バイオテクノロジー　山本修……9

転換期の地域社会
国際化・情報化・活性化　高寄昇三……18

高齢化とこれからの社会　森滋郎……28

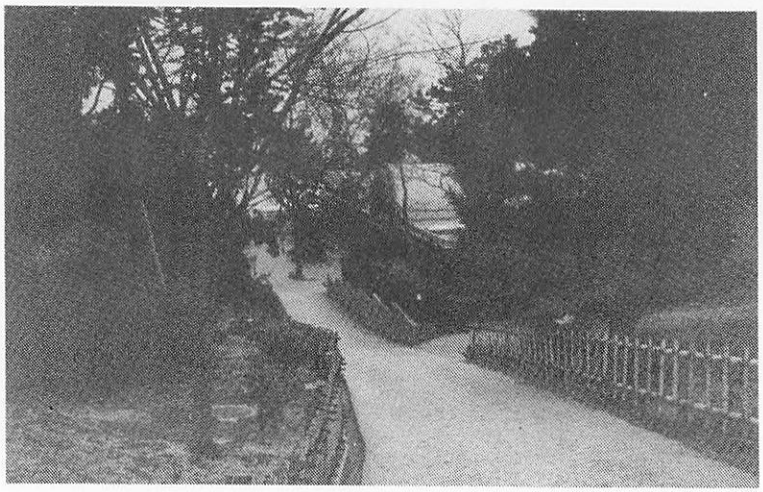
バズセッションより

参加者感想文

参加者名簿

発刊によせて

ヤングキャビン
メインホール
レストラン風呂
陶芸室
大集会室
南の浜



御　挨　拶

ＲＩ第267地区ガバナー

濱　川　金兵衛

余島の桜はたのもしくふくらんだ蕾をいっぱいつけて、花構えを急いで居りました。第８回RYLAセミナーでは、金子ガバナー、今井顧問、深川、江藤両ディーンその他各カウンセラーはじめ関係のロータリアンの皆様、ことに地元小豆島クラブの皆様には、一方ならぬお世話様になりました。お陰様で所期の成果を挙げることが出来ました。本当にありがとうございました。改めて厚く御礼申し上げます。

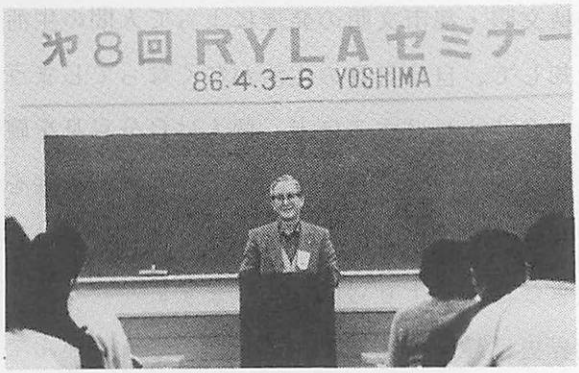
研修生の皆さんには、さぞかし思い出多く意義深いものがあったと存じます。国際ロータリーは、従来の四大奉仕部門に加えて、青少年活動部門を第５のアベニューにしようとする気運が動いております。そのように国際ロータリーは青年の皆様に重大な期待をよせているのです。21世紀のロータリーと21世紀の人類の幸福を皆様に託そうとしているのです。21世紀はそこまで近づきました。

機械文明・都市文明の発達によって人間の生活は、その主体性を失い、個性を没却して、自分自身の生活がなくなってしまうと言われて居ります。だから文明が発達すればするほど、個人は自分自身を確保し、内面的自我を確立しなければならない、美しい人間性 ── 秀れた教養をもった個人個人を大切に育てなければならないと言われるわけであります。若い皆様の秀れた人間性と英智に大きな期待がよせられて居ります。

世界史は静かにおごそかに、その歩みを運んでおります。好むと好まざると

にかかわらず地球は一つの共同体（コミュニティー）になろうとしているようであります。今や自国だけの繁栄を望むことは許されなくなったようであります。地球全体の発展と繁栄のための国際理解と人間的交流が必要になったようであります。

“青年よ大志をいだけ”（ボーイズ，ビー，アムビシアス）という言葉は皆んながよく知って居ります。志を尚（たか）くもって、絶えず現状にとどまることなく、前進を心がけるのが若い人の特権です。若い人はいつも遠くのことを考えます。自覚した日本の青年は、現在の日本の豊かさに埋没し、そこに安居して、今なお地球上には貧困、飢餓、文盲に苦しむ多数の人々のあることを忘れません。未知のものに対する好奇心と困難に挑戦する勇気は青年の特性でありましょう。そして思慮ある青年は＜物質的には質素な精神的には謙虚な心豊かな生活の尊さ＞を忘れません。若い皆様が自己完成へご精進される姿を尊いとも、たのもしいとも存じて居ります。一層のご努力とご健康を念じまして私のご挨拶といたします。



第5回RYLAセミナーを終えて

RI第268地区ガバナー

金　子　太　郎

RI第267，第268両地区共催のRYLAセミナーも今年で第5回を迎え、去る4月3日から6日までの4日間、小豆島の余島にあるYMCAの西日本青少年野外活動センターで開催されました。

本年度は当268地区がお世話する順番になっていましたので、深川純一ディーンをはじめ地区RYLA委員の皆様が顧問今井鎮雄パストガバナーのお力添えのもと、何回となく会合を重ね協議していただき、両地区から多数の参加者を得て開催、大きな成果をあげて無事終了できましたことは誠に喜ばしく、感謝にたえません。

私は4月3日、第1日の開講式に出席させていただきましたが、セミナー参加者は流石各地域の青少年指導者となる方々だけあって、受講態度は真剣そのものでした。このような誠実で、情熱をもった指導者によって指導してもらえる少年少女たちは本当に幸福だと思います。RYLAセミナーで研修をうけた指導者により指導、訓練を受けた青少年たちは将来必らずや立派な社会人に成長し、世のため、人のため奉仕してくれること間違いないと、深い感銘をうけました。

余島には私にとって感謝の思い出があります。今は大学生となっている私の孫は小学4年生のとき、神戸西RC主催の余島での少年キャンプに参加させていただきました。学校では経験したことがない数々の思い出が残され、心の友

が得られ、今でも時々余島でのキャンプ生活を懐かしそうに話しますが、常に相手の立場を考えながら行動し、すこしでも奉仕したいという心を持つ青年に成長できたことを感謝しています。

さて、開講の日、私は久しぶりに小豆島土庄から小舟で余島に渡りました。紺碧の海に囲まれた小さな余島は静寂そのものでした。松の翠はしたたるようで、白い砂は輝き、とても美しいと思いました。今井先生のご案内でキャンプ場を一巡しているとき、私の眼にとまったのが数名の青年がわき目もふらず雑草を抜き清掃している姿でした。みなボランティアの大学生だとのこと、食堂などにもたくさんの大学生らがボランティアで配膳や後片付などしてくれているとのことを聞いて私は心を打たれました。そして世の中、このような青年たちばかりであったら、社会がどのように明るくなることであろうかと、奉仕している青年たちの後姿を頼母しく見守りました。

RYLAセミナーに参加し、研修をつみ、目的を1つにした4日間の共同生活において友情を深められた指導者の皆様、どうかそれぞれの地域に帰られたあと、このセミナーでの教訓、経験をもとに互に励ましあいながら、一人でも多く心暖かい立派な青少年を育て、また機会ある毎に講演会、報告会などによりこのRYLAセミナー参加者同志の輪を広げてくださることを期待します。

最後になりましたが、第267，第268両地区歴代のRYLAスタッフの皆様のご苦労を深く感謝申し上げ、将来とも両地区が力をあわせての努力によるRYLAの発展を願っています。RYLAの隆昌によってこそ21世紀を背負う青少年に明るい希望と期待が持てるようになれると信じています。

DEANより一言

思索と実践

ディーン
深川純一

今から200年位前にイギリスでメアリー・ウルストンクラフトという人が、「女性の権利の擁護」という本を書きました。彼女が問題にしたのは、当時のイギリスの社会では女性と男性とで二つの違った道徳をもっている。二つの違った教育をされている。これは不合理である。道徳が一つであるならば、同じ教育をすべきである。という形で問題を提起したのです。これがそれ以後、フェミニズムの一つの太い潮流となって継承され、実存主義のボーヴォワールその他の思想の底流として流れ続けているといわれています。（註1）

この話は、リーダーにとって大変示唆に富む話だと思います。わが国でも、昔は「男女七才にして席を同じうせず」といわれていました。世の中のほとんど全ての人達が当然のこととして、いわば常識として、そのように思っている事柄を、実はそれが間違っているのだと見抜くことは大変むつかしいことであり、また、それを堂々と世の中に主張することは、大変勇気のいることであります。

しかし、世の中の諸々の現象に惑わされずに物事の本質（本来あるべき姿）を見抜くこと、これは大変むつかしいことではありますが、リーダーにとっては大切なことであり、リーダーたる者は常にそうありたいと思うのであります。そのためにはリーダーは、リーダーとしての生活実践の中で時に立ち止まって思索し、自らの実践の正当性（自己の主体性）を確認して、再び実践に立ち戻

ることが必要であると思います。

思索のない実践は、主体性のない盲目的な行動となり、時として実践の方向を誤る危険があります。反面、

実践のない思索は、燃えない石炭みたいなもので何らの存在意義もない、世のため、人のためには役立たないのであります。

この意味で、思索と実践とは、車の両輪の如きものであって、思索は実践のエネルギーとなり、実践は思索を深めるのに役立つのであります。

したがって私達は、リーダーとしての思索の世界とリーダーとしての実践の世界とを常に意識しておく必要があると思います。

この点について、もう一つの話を紹介しておきます。

わが国の有名な農民哲学者 二宮尊徳翁は、

「人生は水車のようなものである。水車の半分は水面下にあり、他の半分は水面上にある。だからこそ水車は回転するのであって、下半分は流れにしたがい上半分は流れに逆らって回転する。

ところが、水車を水面上にあげたり、水面下に漬けたりすると全く無用の長物となる。賢人の教えに耳を傾けたことのない人は、隣人達に対する義務を知らず、自分の欲望をみたすためにだけ身をゆだねる。そういう人は、あたかも水車が完全に水没しているのと同じである。一方、世間の雑事から一切身を引き、精神生活にのみ耽溺することは、水車が完全に水面上にあるのと同じである。このどちらも人間社会に適さない」と云って、中庸の道を説いたのであります。（註２）

この話は、前述の思索と実践との関係に一脈相通ずるものがあると思いますが、如何なものでしょうか。

私達は、実践の世界の中で時に立ち止まって思索し、自らの実践の意味を考えてみる必要があります。このRYLAセミナーでバズセッションとフォーラムのテーマに「地域社会」をとりあげたことも、リーダーの実践の場である地域社会について、色々な討議の中から現象にとらわれずに本質を見抜く思考を培っていただきたかったからであります。技術的なことよりも、本質的なものを

把握してほしかったわけであります。

フォーラムの中で地域社会における環境や価値観の変化、そして、子供の変化とリーダーの対応、学校教育、社会教育、リーダーによる教育等々の論議を通じて、核心にふれる発言がありました。今一度、反芻していただければと思います。

RYLAは思索の場であり、地域社会は実践の場であります。ロータリーは、実践のエネルギーとなる思索のために主体性をもった人達の出会いの場を設定します。それには毎週一回の例会をはじめ色々のものがありますが、このRYLAもその一つであります。

以上の話の中から、RYLAの意図するものを感じとっていただければ幸いであります。

では、皆さん、いつまでも元気で御活躍を祈ります。

（註１）　ジュリスト増刊号「女性の現在と未来」・名古屋経済大学水田珠枝教授対談より。

（註２）　この話は、大阪ロータリークラブの土屋大夢氏が昭和３年に東京で開催されたロータリー大平洋地域会議において海外から参集したロータリアン達に対し、「ロータリークラブ結成以前の偉大なロータリアン」というテーマで、日本の農民哲学者二宮尊徳翁の教えを英語で紹介した演説の一部である。

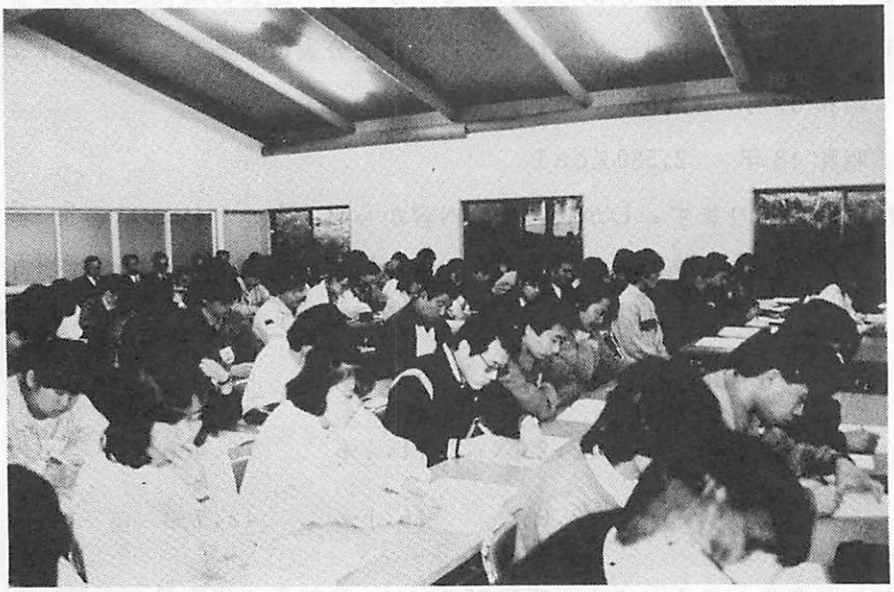
同氏は、この演説で東京のクレメンテ博士が大正15年5月東京ロータリークラブで第31回例会において「ロータリアンとしての二宮尊徳」というタイトルで、ロータリーの思考と二宮尊徳の教えの類似性を指摘した話を利用したのであった。

＜セミナースケジュール＞

	4月3日	4月4日	4月5日	4月6日
8				
9				
10		講　演 これからの農業 （バイオテクノロジー） 山本　修氏	講　演 転換期の地域社会 高寄昇三氏	講　演 高齢化とこれからの社会 森　滋郎氏
11				
12		昼　食	昼　食	昼　食
1		思索の時間	思索の時間	記念植樹
2				離　島
3	オリエンテーション ライラとロータリー バズのテーマについて	レクリエーション （ヨット・テニス等）	バズセッション （キャビンごと） バズの結果発表	
4				
5				
6	夕　食 （オープニングパーティー）	夕　食	夕　食	
7		キャンプファイアー 親睦の夕	フォーラム	
8	キャビンタイム			
9				
10				

講　　演

現代から未来へ（21世紀へむけて）



日本・世界の食料・農業問題とバイオテクノロジー

神戸大学農学部教授

山　本　　修

現代は飽食の時代と云われております。皆さん方は食料不足など実感としてはないと思いますが、戦中・戦後にかけて日本は大変な食料難の時代でありました。そう云う時代を体験している人達は日本人が腹一杯食べられる世の中にしたいという切実な願いがあったわけですが、今や飽食の時代であります。一人一日当りの摂取カロリー（農林水産省栄養成分表による）から見てみますと、

昭和59年　2,594Kcal

昭和48年　2,580Kcal

と約横ばいであります。しかし、その内容からみると、

PFC比率	P（蛋白質）	F（蛋白糖質脂肪）	C（炭水化物）
	P	F	C
S58年	12.6%	27.7%	59.9%
S35年	12.2%	11.4%	76.4%
アメリカ 1979～81年	12.6%	45.1%	42.7%

とかなりの変化が見られます。昭和35年には、澱粉質の摂取量が非常に多く、ここ数年のデータはあまり変っていません。

アメリカの上院でも問題となった事がありますが、アメリカ人の脂肪摂取料は45%にも及び（他のヨーロッパ諸国・インド等は約40%）これが肥満を中心

としていわゆる成人病（高血圧・糖尿病・心臓病）の大きな原因となっています。

個人によって大きな差はありますが、現在の日本の平均的な数字はある意味では理想的なものであるとも云えます。

昨近、若い人の中にはダイエットと云う事で出来るだけ食べないと云う風調もあるようですが、全般的にみて穀類中でもお米の消費量はずいぶん減っています。

昭和38年頃には1人当り年間118Kであったものが現在では75Kとなっています。昭和6年から10年位まで、だいたい毎日、飯茶碗で7杯の消費量が今では4杯と減っては来ていますが、日本人の食生活からみるとお米は完全になくなってはいません。いろいろな調査からみると、朝お米を食べる人は少なく、だいたいの人がパン食になり、昼は外食で様々、夜はやはりごはんとおかずと云う風に食生活のパターンが変って来ています。食品としては、戦後ずっと増えて来た乳牛・牛肉・豚肉・ブロイラー・卵等がここ数年はあまり変らず、高度成長期には野菜・果物等もずっと増えて来ました。もっとも野菜の場合でも人参・ごぼう・大根等、昔からの伝統的な野菜は増えず、キャベツ・レタス等洋風の野菜と果物が急速に増えて来ました。最近では中国野菜も急速に増えています。しかし、量的に見て野菜・果物の消費量そのものは横ばいで増加はしていません。

食生活そのものの内容の変化・多様化がすすみ、和食・洋食・中華それらの混合と云うように、非常にバラエティに富んで来ました。

食べる事の本質というのは生きていく為に食べる（肉体的欲求）ことから始って、食べる楽しさへ更に調理の手間をはぶいて便利に食べる事に移行してゆきます。先程も申しましたように和風・洋風（アメリカ風・フランス風・イタリア風etc）・中華風と食事の水準は国際化し、情報は非常に早く広くなります。ところが、一方、おふくろの味だとか、近年流行のホカホカ弁当、トンカツ、カツ丼、カレーライス等米に適合させた日本特有のものも根強い特色を見せているのは面白いことだと思います。

もう一つは健康志向です。故里志向、本物志向、手作り志向と云うように安全性とか、手作りだとかが重視されて来た。これも、特色であろうと思います。それと同時に珍らしいものがどんどん出て来る。野菜を例にとっても食事の洋風化と共にレタス、ブロッコリー、カリフラワー等はもう定着していますが、クレソン、チコリ等、我々の子供の頃にはあまりお目にかからなかったものもスーパーに並ぶようになり、品目の中だけでもずいぶん多様化して来たわけです。果物も同じです。食生活の外部化も見逃がせないことです。外部化とは今まで家庭の中で調理をしていたものが外食が多くなったり、加工食品等、外食産業が発達して来たことです。そして又それらの総菜も高級化されて来ました。何が原因か、原因はいろいろあるだろうと思いますが、一つは主婦の生活時間が変化して来たことです。仕事を持つ主婦が増加して来たこともありますし、主婦の人達の余暇の使い方が変って来たことも大きい原因です。一方では安全性、手作り志向と云われつつ、他方では簡便化志向、冷凍食品、インスタント食品等が好まれているのも事実です。非常に矛盾しているようですが、こう云った両方の傾向が続いてゆくのではないかと思います。

生産供給面の方はどうかと申しますと、戦前の食料自給率は植民地での生産も含めて 100 %でした。ところが戦後事情がすっかり変り、食生活の変化によって生産が十分に対応出来ないこともあって外国依存度がどんどん進んでまいりました。

小麦 91 %、大豆 95 %が輸入されています。米の自給率は 100 %であり、鶏卵 99 %、肉類 80 %と案外自給率が高いのですが、畜産の資料の自給率は 0 と云って良いほどで 100 %輸入にたよっています。

食生活のオリジナルカロリー 2,594 Kcal のうち約半分 1,300 Kcal が国内生産、残りの 1,300 Kcal が国外に頼っていると云えましょう。

現代は飽食の時代と云われますが、その飽食の半分は国内生産、半分は外国からの輸入と云うのが現状です。総合自給率の二重構造と申しますか、かなり自給率の高い所と低い所とが見られる。

米をのぞいた穀物の自給率は世界でも非常に低く、又、畜産の飼料も全く輸

入にたよっている。この事をどう理解するかがむづかしいところです。生産が国内・国外等問題ではなく、安い所から輸入する。

特に日本は輸入するものがあまりないのだから、せめて食料輸入をふやし、貿易の黒字をへらしたらよいと云う国際分業論もあります。世界にずっと平和が続き、将来の世界食糧に不安がないと云う前提で考えるなら自給率の低さ等問題にならないと言えるかもしれません。しかし、一方では外国依存度の強いのはどうかと云う、安全保障論（食糧安全保障）もあるわけです。

輸入依存の場合、いざと云う時は、国家有事の場合は全く駄目なわけで、外交上食料を武器として使う場合も考えられます。

もし、食料の輸入がとだえたらどうなるのか、先程も申しましたように1,300 Kcalしか国内では得る事が出来ない。1,300 Kcalでは人間として生きていく事は出来ないわけです。簡単にはいかないとしても、なんとかしてせめて、2,200～2,300 Kcal国内で維持する事が出来たらと考えられています。現在日本の耕地面積は約5,500,000ヘクタールですが、単的に面積当りカロリーを一番多く出すものはなにか、さつまいも或いは馬鈴薯・米が重視されます。畜産は一度飼料を作って再生産するわけですから、不効率が高く、従って蛋白源は大豆・植物性蛋白質に頼ることになります。

あと野菜を少々、果物は非生産的であるからやめることになりましょう。こうして5,500,000ヘクタールで2,300 Kcalの水準がなんとか維持出来ると云う計算です。今のこの耕地面積をどんどん宅地に転換したり、ゴルフ場、工場、道路等に変えてしまうと、やはり食料の自給と云うことからは非常に困ることになるわけです。食料の輸入が増えた原因には、基本的には日本の農業の体質にあります。農業生産をどう云う風に持っていくかと云うと、

1. 選択的拡大　これから需要のあると思われる農産物をどんどん増やす。
2. 農産物の転換　今後需要が減ると思われるものは、どんどん転換をはかる。
3. 外国の農産物と競争する　生産の合理化をはかる。

等が考えられます。米の生産については、食糧管理法があって一応政府が必要

なだけ買い上げてしまう。お米を作る面積を少なくする、減田すると云う事で、休耕地がふえる。最近になってようやく自給率の少ない小麦や大豆、畜産の飼料等を休耕地に作ることがはじめられたようです。日本は米に関しては完全に自給していますが、競争と云う視点にたつと品質のほとんど変らないカルフォルニヤ米が日本の$\frac{1}{5}$と云う数字で表れています。

農業には土地利用型農業（米・麦・大豆etc）、施設型農業（ビニールハウス・養鶏・養豚等）がありますが、アメリカ、ヨーロッパ等にくらべ、大きな土地を使って作る米・麦・大豆等のコストが非常に高い。その原因は農業の規模が小さい事にあります。

日本の現状では、農業と云っても50アール以下の零細兼業農家が多く、どこかに勤めていて片午間に米を作る、利益を得ると云うより先祖伝来の資産を一生懸命守っていると云う有様です。

それと農業にも高齢化がすすみ、若い人が農業をしなくなった事も現実です。国土庁の予想によると、次のような数字が出ております。

1968年	農業人口	700万中	65才以上	24.5%
2000年	〃	340万中	〃	48.4%
2012年	〃	260万中	〃	60%

こうしてみると、高齢化が早いスピードで進んで来ているのは事実です。見方を変えれば農業と云うのは、高齢者の雇用の場としてよいかもしれないが、活力、活力があるかと云う事に関してはどうでしょうか。

最近、兵庫県の但馬と淡路の農村を歩いてみました。

例えば、但馬の高原開発と云うことで但馬牛の飼育をコストを安くするために、自給飼料を作ったり、廃校になった校舎を払い下げで安い畜舎をたてたり経営を合理化するためにきっちり経済的にも管理しようと云うことで、若い奥さんが簿記を習ったり、夫婦で一生懸命やっています。恐らく将来はパソコンを導入して飼料の計算や経営の計算もやるようになるでしょう。農業と云っても農産物にかぎらず、都会の街路樹に使うような緑の木や観葉植物等を土を使わずに製鉄所の鉱滓で育てたり、新しいバイオの利用で新品種の洋らんをかな

り事業的に作ったり、そういった新規産業の芽ばえがあります。

そう云ったことで今まで農業は農家の子どもがする事に決ったことであったのが、他の人でも農業に興味を持つ人も出て来ると思います。唯土地の値段が非常に高いのと借りるのもなかなかむづかしいと云う難点があります。長野県の八ケ岳で土地を借りて立体斜面を利用し、夫々の気温にあったバラエティのある農産物を近所のおばさん達を使って栽培に成功している事例もあります。これからどの程度発展していくか非常に興味のあることです。私は日本の農業はそう簡単にはつぶれないと思っています。唯先程も申しましたように550万ヘクタールの約$\frac{1}{2}$の水田をどのように生かしながらやっていくかが今後の大きな課題であると思います。

次に世界に目をむけてみますと、飽食と飢餓が併存していると云うのが、世界の現況です。アメリカ・ヨーロッパ諸国・日本等云わゆる先進国は食生活の水準が非常に高く、云わゆる飽食から来るカロリーの過剰摂取、肥満児や成人病が課題となっています。

一方、第三世界、発展途上国では、生存するに必要な限界の食糧さえも確保されていないのが現状です。約50ケ国のうちで生存に必要なカロリーを維持しているのは20ケ国にすぎません。例えばエチオピアは必要量に対して76％と云う数字が出ています。

1）気象条件　農産物は技術が進歩したとは云え、気象状況に影響を受けることが多い。

2）人口増加　幼児死亡率の減少（衛生的な予防や普及）
　　食糧生産力と人口増加率のアンバランス

が考えられます。食料生産の方から見ますと、例えばアフリカ諸国は、昔はほとんどが植民地でした。植民地と云うのは、結局本国にとって都合の良いものコーヒー、チョコレート、ココア等食べる為よりも輸出の為の農産物を作っていました。独立後は経済国として発展するには工業化が必要となり、その為には外貨が必要となり、それを得るためには食料としての農産物を作るよりも輸出の出来る農産物、そして得た外貨で食料を輸入と云うような循環になってお

りました。

ところが、輸出がどんどん安くなって来ると外貨が稼げない。したがって食料も輸入出来ないと云うことにもなるわけです。

経済構造の立ち遅れ、ゆがみ、産業構造のゆがみ、政治的な不安等大きなかかわりを持っています。地球上で人数から云いますと、満足に食べている人達よりも満足に食べられない人の数の方が多いわけですから、先進国としてはなんとかしなければならないと云うことで国際協力と云うことが出てまいります。しかし、かならずしも援助が効率よく行われるとは限らず、現地に適合した援助が必要であり、農産物の生産のみではなく、輸送の問題・貯蔵技術流通機構等を含めて考えていかなければならないだろうと思います。

特にアフリカについて云えば、greem Revolution多収穫品種を作って自給率を高めています。技術者の養成にも力を入れておりますが、日本ではアフリカからの留学生はなかなかむづかしい。

お金の問題、日本語の問題、皮膚の色の問題、人種差別と云うことではないのでしようが、なんとなく気味が悪いと云うことで下宿も見つかりにくいと云うのが現状です。私は特に農業技術に関して今問題になっている地域の技術者の養成に対してロータリーが中心となって力を入れて頂ければいいのじゃないかと考えているのですが。

人類に対する将来の予想には悲観説と楽観説とがあります。18世紀後半から19世紀にイギリスの経済学者マルサスは、人類は飢えの時代に突入した、人口の増加、食料不足で人間はいずれ餓死するであろうと申しました。技術の進歩によって収穫の増加は見られるようになって来ましたが、もう一つの大きな要員である気象に関しては、地球はどんどん寒冷化の傾向がある。農業に適した土地がなくなると云うのは、解決出来ない未知数の問題です。

一方楽観説では、発展途上国では人口の増加率は高いけれども、除々にではあるが、人口抑制の効果が上っていること、中国のように強引に子供を1人しか作らせない所もあり、実状はこの中間とみても発展途上国では食料が足りないのは事実です。しかし、全体からみて、なんとかバランスが保たれていると

云う考え方です。

農業の技術進歩も一つの課題であります。日本でも明治以来、品種改良につとめて来ております。

今、注目されているバイオテクノロジーの定義はいろいろありますが、一般的に云いますと生物或いは生物の持っている勝れた機能を効果的に或いは人工的に模倣すし、我々の産業或いは生活の上で役にたつものを生産する、新しい技術であると云われています。

バイオとは、

1. バイオリアクターを利用して作った例えば、人口甘味料（パルスィート）バイオ口紅、バイオ化粧品等
2. 遺伝子を人工的に組み変える
3. 細胞融合　　細胞膜を取り、細胞を裸にし融合させる。

   例えばポマト（ポテトとトマトを合成）と云うものが、西ドイツのフランク研究所で作られたそうです。しかし出来たと云うだけで味はまだ駄目でしょう。オレンジとカラタチでオレタチなんて云うのもあります。

4. 組織培養
5. 胚 培 養

} はかなり実用化の段階に来ています。

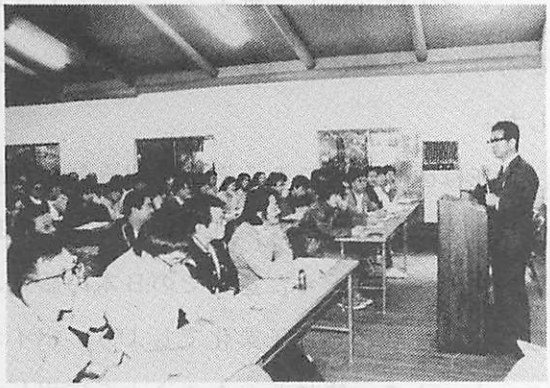
いちごやばれいしょ等ウイルスにかかりやすいものは、成長点（一番先のところ）はかかりにくいので、そこを切って大量に増殖することが可能となりました。

現在は医学段階である遺伝子組み替えが農業面でどうなっていくのか、今のところ未知数ですが、案外早いスピードで技術進歩が行われるのではないかと思います。そう云った意味での日本の農業、世界の農業が進んでいくのは、新しい技術を利用した工業化でしょう。バイオとメカトロニクス（エレクトロニクスとメカを一緒にしたもの）とを応用した食品工場で工場生産的なものが出来つつあります。しかし、これで凡てをまかなう事は出来ません。一方では、土地利用型の農業も行なわれており、自然の生態型を重視した農業（典型的なのが有機農業）も注目されています。これには化学肥料や農薬による地力の低

下を防ぎ、土作りも大切なことです。消費者の食べもの志向がコストの低いものを求めるものと一方本物志向・有機志向の両方に分れて来ているような気がいたします。

私が最後に申し上げたいことは、これからの農業を育てていくのは単に農家や国だけではなく、国民全体でやる時代です。

我々消費者は、日本だけでなく、世界の人の飢えをなくすためにどうすればよいかと云う事もこれを機会に考えて頂ければ幸いと思っています。



転換期の地域社会

国際化・情報化・活性化

甲南大学経済学部教授

高　寄　昇　三

皆さん御存知のように、日本の社会は昭和35年から45年にかけてはげしく高度成長しました。この時代には公害をはじめ様々な問題が起り、人間の生き方とか、地域とかを考えなくてもむこうから問題が起って来たわけです。ところが昭和50年の低成長時代になり、問題がないようで、実は地域社会や家族、民間会社、官庁も含め管理社会に表面化はしないが大きな変化が起って来ております。その変化に管理社会、地域社会が充分に対応出来ない事が起って来た時どうなるかと云うと、やはり家庭生活とか個人の幸せが犠牲になるということなんです。しかし個人と云うものがそういう環境の変化に対して、どの程度対応出来るかどうかという事です。身近な例をあげれば、例の豊田商事の問題です。老人と云うものは貧乏で金がない哀れなものだと思っておったところが以外とお金を持っているわけなんですね。お金を持っていますが、財産を管理する能力というものは全々持っていないんです。そうすると簡単にだまされて損をするということですね。非常に不幸な問題です。こういう問題について国も公共団体もなんら手を打たない、老人の生き方、財産管理一つを見ましても日本において高令化社会が早いスピードで来て対応が遅れているのです。あとの一つの例として、大学の先生には二通りあって、試験の点のからい、徹底的に学生をしぼる人と、私のように公務員から変って来ますと点が甘いんです。何故私は学生に勉強しなくてもいいというかと申しますと、日本の学生は猛烈

受験勉強してやっと大学へ入れたというのが多いんです。大学4年間と云うのは、人生80年の中で唯一の自由にのんびり出来る時間なんですね。それを徹底的にしぼったらかわいそうだと云うことなんです。ところが学生を見ていますとのんびりして運動部にも入らないんですね。私は学生に運動部や文化部に入れ、それが嫌なら徹底的にアルバイトせよと云うんです。中にはゼミの時間しか学校に来ないで徹底的にアルバイトしている人がいます。この人間は将来どんな所に放り出しても絶対大丈夫なんですね。「結局何かをせよ」ということなんです。日本の会社はすごく働かせる所で、管理社会に入って生きていくという事は大変な事です。そして個人の期待と現実とのギャップは大きく、一流大学、一流会社に入っても出世のエスカレーターのスピードは高度成長期の$\frac{1}{2}$ぐらいなんですね。ところが人間の生き方と云うものはなかなか変らない、今教育ママが一生懸命子供を教育させても将来どうなるか。地方団体でも個人でも選択の巾が大きくなって来た。選択をあやまった時の悲劇と云うのが大きい。これは家族でも云えることです。地域社会で何が問題になって来ているかと云うと、やはり根底には家族というものが変化して来ている事です。今までは家族が変化して来たことによって起る現象を地方団体がカバーして来たわけですが、カバーしきれなくなって来た。家族機能の社会化という事はかって家族が持っていた機能を全部公共サービスに振りかえて来たわけですね。明治政府が近代国家としてスタートしてからずっとそうなんですね。日本人の思考とか、家族構造とか地方自治体のルーツと云うのはみんな近世にあるんです。近世の自然村にあるわけで、地方自治を勉強する場合、近世を研究せなあかんのです。近世の村とか家族は全部自分達でかかえこみ、お金を納めるだけで、何も公共団体とか政府に期待しない。近代になって明治政府がまずはじめたのが教育機能で、教育を家族から切り離して自らの思うように教育していった。宗教もそうです。家族機能の社会化で戦後顕著に起って来たのが保護機能の低下です。三世代家族というのは非常に安定していて、保護機能があるんです。ところがあまり快的なものではない。公共団体の側から云うと、核家族化した場合何がこたえるかと云うと保育なんです。又、高令化が来ると保育機能より更に深刻

な問題になった。昭和53年には6ケ月以上の寝たきり老人を家族で69%扶養していた。あとは病院と特別養護老人ホーム等へ行っていた。ところが59年には55%に下がっています。何故6年間に15%も下ったかというと、息子の配偶者が親の面倒を見なくなった。精神的な問題ばかりでなく、社会構造的な問題で、同居するだけの住宅の広さがない。又、働いている場所と親の住んでいる所との距離が空間的に離れている。女の人が働いている事等があげられます。こういう事が全部公共ベースになると、公共団体はいくら金があっても足らないし、又公共団体は家族の代わりをする機能を持ち合わせていないのです。教育水準、文化水準の向上も公共経済にとっては非常な負担です。私立大学への補助、コミュニティ行政で大きくクローズアップされているのが、老人や主婦の体育館の利用や市民講座への参加です。自分で民間のカルチャーセンターやスポーツクラブに入れる人は別として、多くの人達は経済力や時間的拘束から考えても公共団体が近所で安価に提出するような施設へ来る。そこの方がいわゆる大儀各分があるわけです。ところが現在まではなんとか公共団体がカバーしていけたのが、今後老人は多くなるし、遊びたい働きたいという主婦が多くなるとカバーする地方団体の能力に限界が来る。ここで重要な事は地域社会をしっかりしておかなくてはいけないと云う事です。公共団体があらゆるものを管理するという社会を兵営国家といって、軍隊のようなもので個人がそれほど楽しい生き方が出来る生活設計になっていない。このような国家になる事をくい止めなくてはいけないと云う事になると、地域社会なんです。ところが日本の地域社会というのは欧米と比べて本物がない。東京と云えども田舎がそのまま大きくなって、空間的にも地域的にも意識的にもそうなんです。日本人と云うのはあまり自分達で金を出してスポーツセンターを作ったとか、病院を作ったとか、軍隊を作ったとか云う事がない。欧米は都市国家で自分達で軍隊を作り、裁判所を作り……といったものが近代国家になった。日本の場合ははじめから国家があって、国家が支給してくれた型にはまった生き方、死に方をしても決して矛盾を感じなかった。しかし型にはまった生き方、思考では地域社会とか経済環境とか家族構造が変って来ますから、これから悲劇がおこる。そのためにも

地域社会はよほどがんばらなくてはいけないんです。下手にすると管理社会、兵営国家になるか逆に民間会社が中心になると市場社会みたいになるわけです。なんでも金で解決しようとする市場サービスでは金をもってしても救えない面が沢山残って来る。兵営国家とか、市場社会以外に自分達で違った生き方や地域やシステム、家族意識等を育てていかなくてはいけない。農耕の近世の自然村が大きくなってきた日本の地域社会に一番何が問題かと云うと、機能的な集団と云うのが貧弱で遅れていることです。最も発達しているのが地域住民組織、昔は町内会、最近は自治会と云われるものです。それに子ども会、老人会、青年団等がひっついているわけです。あと一つは、商工会議所、労働組合等が地域社会にあるわけです。こういうのは自分達の地域のためだけということです。どこの会社にも労組があって、それが各都市の単位で各系列に作られ、彼等は自分達の賃金をあげるという目的ばかりです。商工会議所も自らの会社とか自らの地域の活性化をはかるという事だけです。機能集団はYMCAとか福祉法人とか又、日本では体協とか社会福祉協会等官庁の機能集団を云うのです。官庁から離れ自立した機能集団と云うのは本当は少なく、しかし、これからは非常に重要になって来ます。あと一つは市民運動集団「何々する市民グループ」等です。これからの地域社会とか市民生活を考えていく上において、どうしても機能集団とか市民グループがしっかりしていなければ絶対に上手くいかないわけです。どうしてかと云うと昔は生活水準も低く家族構造がしっかりしていて生き方は単純、一つの生活しかなかった。これからの生き方は多種多様、管理社会での自分の幸福が充足されないと云う事になると自分達が生きている地域社会が成熟していかなければ問題は多いし、自分達が万一の場合にカバーしてくれない。日本の場合、官庁側がこういう事をとりあげて対応する事に市民は漠然と期待している事が多いようですが、それは成功しないと私は思う。今ある自治会をコミュニティに育てていこうと云うコミュニティ行政が盛んに云われた時もありましたが、官庁が補助金を出してコミュニティになるかと云うと私は80%ならないと思う。今の自治会の主たる仕事は官庁からの下請けのものが多く、参加意識がほとんどない。集団指導体制にはなっていないわけです。

自治会は強制的に加入する団体ではないが、日本人の意識、考え方では入らないでおくと云うのは非常にむつかしい。「日曜日の朝、団地の溝掃除をしますから参加して下さい」と云われると必ずしも参加しなくてもいいけれども結局は参加しないと文句を云われる。個人の生活とか能力に関係なく画一的な義務を荷す、半強制的な力を持っていると云うやっかいな存在なんです。溝掃除だけが地域社会でない。地域社会に応じて各個人の能力を多用に活用していくシステムを持っておかないといけない。個人の生活を圧迫して個人の個性のある発達が成熟していくような生き方は望めない。勿論、自治会が機能集団的な活動をしていく事も可能なんです。そう云う方向へ地方自治体が指導していったり、自治会自身が自分達の体質改善をしていかなくてはいけないわけです。機能集団がなぜ期待されなければならないかと云うと、私達が幸福に暮していくためには公共サービスと市場サービスだけでは幸せは保証されないからです。人間には何か個人として充足したいと云う欲望がありますね。「車を買いたい」と云うのは市場サービスで充足出来る。生活保護を受けるとか、不幸にも身障者になった、奥さんに捨てられ子供をどうしても公共団体に預ってほしい
これらは公共サービスです。ところが地域社会が変貌して来たり、公共団体が変ってくると準市場サービスとか、準公共サービスと云うのがどうしても必要になって来るわけです。金持は別として圧倒的に多い中産階級というのは市場サービスで自分達のすべてを充足するというのはむづかしいんです。これからは公共団体からはずれた公社とか外郭団体の比重がだんだん大きくなって来るでしょう。政府は税の減免とかある程度の補助は出すが、担い手は公益法人等になるんです。これはどうして必要かと云いますと、これからの高令化社会一つをとってみても、高令者の方は病院に入るほどではないけれど半健康人と云う状態が長いわけですね。そんな場合在宅でサービスしてもらうという事が一番いい。ところが公共団体と云うのは建物をたてて施設へ収容する事は出来ても、こちらからサービスに行くと云う事は下手、そうなるとサービスというのは公益法人が民間のボランティアを活用してやっていかないといけないと云う事になる。有償福祉というものを上手に活用して多くの人に家庭サービスをと

いう方向に現在はいっています。これは文化でもスポーツでもそうなんですね。今、サラリーマンの間でもゴルフが盛んですが、ほどほどのゴルフ場の会員権を買おうと思うと非常に高い。どうしてパブリックのゴルフ場が欲しい。テニスでも一流のテニスクラブに入ろうと思うと数は限られているし会員制である。そうなると公共のものが必要になる。ところがこれまでスポーツと云うのは学校教育のスポーツの延長で来ているので無料で管理された型しか分らない。不特定多数の人が来てそこでスポーツを楽しむというようなスポーツ施設とか管理システムを持っていない。と云う事を考えるとどうしても有料制で市役所から離れた所でスポーツ施設を運営していく事も必要になってくる。これまで福祉と云うのは低所得者がサービスを受けるという事で数が限られ、無料という事だったが、これからの福祉は必ずしも低所得者が対象ではない。「施設は公共団体で作ります。しかし経営は民間でして下さい」と云う官立民営と云うか、効率的に経営しコストが低くなる方法がさかんにクローズアップされています。そうでないと独身貴族のOLは別として、老後はみじめなものになるし、暇のある子どもから解放された主婦も生きがいがあり、楽しい家庭生活を送られないなんて事になるわけです。教育の面からみても、政府は私学補助を切って来ていますが、これは大変な事なんです。まず私学が存在しなければ日本の税金は2倍になると覚悟しなくてはいけないですね。例えば神大の経済学部は学生が250名、先生が34名、甲南大は先生が20名で、学生が400人です。生産性が2倍なんですね。かりに全部神大なみにすれば学生1人100万円くらい税金がかかっているんです。甲南大への政府の補助は8億、学生1人当りにしたら3万か4万でしょう。大学を研究部と教育部に分散して、教育部を民間に払い下げ、学生は全部同じお金を出して入り、低所得者だけに奨学金を出す方が社会的に公平なんです。サービスの性格から云うと国立でやっている事は必要ないんです。一流の大学の先生が経済原論など教えたり、採点から何から何まで一流の如何にかかわらずやるんです。教育と研究が合体しているから無駄な事が多いんです。一番極端な例が国鉄で、あゝ云う事をやって来たから政治の介入とか組合問題でゆきづまってとうとう分割民営化というとてつもない事にな

ってしまった。あれが一番身近な例ですね。
文化とか福祉とかになるとますます官庁より公共法人的な機能集団の方が重要になって来るという事です。前にも触れましたが、市場サービスというのは、個人的な欲望を充足するサービスで、この欠点は必ずいきすぎる。収益をあげる事を目的としているので、購売力をエスカレートさせ、競争をあおり、しまいには環境破壊とか、家庭破壊とか、生活破壊につながる可能性を持つわけです。トヨタ商事事件は、公共サービスのシステムが発達しないうちに来た高令化社会の悲劇なんですが、公共サービスとは何かというと、ある種の強制なんです。無料サービスというのは自発的ですが、よく考えれば強制なんです。
「あれに行ったらとくや」と云うことで。建設大臣が出た置き土産と云う事で北海道の一日1台しか車の通らないような所に幹線道路が走ったり、5分に1台くらいしか通らない高速道路を宮崎から都城まで作ったり強制的にそういうものを作るのです。これは財政学的にはフリーライダーと云い、ただ乗り現象なんです。そういう事ですから健康保険料を上げるとか上げないとかでガタガタ云うんです。日本人と云うのはおかしいですね。公的料金をちょっとあげると騒ぐわけです。学校給食を100円上げるというと家庭の主婦が血相かえて来るのに、熟へ自分の子の能力も考えず1万も2万も払ってるわけです。
準公共サービスが発達すると贈与の経済になる。これは税金ではなしにパブリックなものに金をあずけて、そういうもので地域をまとめていこうとするものです。現在公共団体で流行しているのは公共団体の中に基金を作り、そこへ民間団体から寄付を集め文化とか環境を保全していくと云うのでアメリカの場合「公共信託の理論」というのがあります。「自分達が寄付をしてそういうものでキチッと管理して下さい」というシステムは強制的に集めるシステムより贈与のシステムを活用していくということです。贈与のシステムというのは反対給付を期待していないのですから愛情のシステムなんです。これは公共システムの準市場と似かよっています。しかし、理屈を云いますと共存なんです。典型的なものは生協で、自分達で金を持ち寄って自分達で責任を持って自分達の生活を守っていこうということです。ところが日本の場合、国は何故公共団体

が基金を作るかと云いますと、こういう所へ寄付する時は民間会社は損金でおちるんです。ところがYMCAへ1億寄付したら、もう1億税金を払わなくてはいけないというシステムになっているんですね。個人の場合は、公共団体に寄付しますと所得控除の対象になるんです。そういう事ですから公共団体へ寄付してもらい、そこから文化、環境保全、福祉、スポーツ等の協会へ金を出してゆく。これは考えようによっては官庁優先型、政府優先型、地方団体優先型です。アメリカのように公益法人に寄付をしても損金でおちるとか所得控除されるシステムを発達させればいい。神戸市役所へ寄付するよりYMCAへ寄付した方が信用できるわけです。公共団体に寄付をしてもどこへ金が行くのか分らない。その基金は確かにあるが、そのういた分はどうなるか分らない。YMCAのように会計が小さいとごまかせない。パッと見たらすぐ分る。これからの地域社会というのは、何にしても自分達が管理出来、自分達が支配できる所へ金を集めるということなんです。共同募金に反対しているのは自分達が金を出して自分達が管理出来ない。公共団体が政府の金を集めてそれが地域へ帰って来るというのは循環ルートがない。これからの社会で何が必要かと云うと福祉サービスです。福祉サービスとは内容が実に多様であるし、自分の思うサービスを自分が支配出来るとか、文句の言えるスケールの団体でなかったらいけない。現在イギリスでは福祉国家から福祉社会へと言われる。どう云う事かと云うと金があってもサービスがなかったらあかんのです。寝たきり老人になっても在宅サービスのシステムというのは遅れています。病院に入るか、施設に入所するか。病院に入ってもねたきりだとどうしても10万はかかる。病院へ入るってのはなかなかなんです。どうしてもいいサービスを自分の家で受けたいというには公共団体ではあかんわけです。公共法人とかせめて公共団体の外部でサービスがほしい。そう云う場合、ほとんどが中の上とか中の下の人ですから比較的低料金でサービスがほしい。福祉という事を考えていくと、社会保障というのは必要条件ではあるけれど充分条件ではない。サービスは公共団体ではむつかしい。どうしても公益法人を充実していこうと思ったら、相続に伴う寄付とか、損金とかを政府自身が変えていかなくてはならない。政府自身はそういう

サービスから手をひく。そのかわり民間のサービス団体とか有料サービスのシステムを発達さす。これは環境保全とかそう云う面で最近問題になりまして大蔵省もだんだん民間団体にある程度の財団法人に年月を限って損金控除とか所得控除を認めていこうと云うように変っていっています。こういう事を脱法行為的にしようという事は可能なんです。神戸市で一番困るのは東灘という一流の住宅地で御主人が亡くなり、相続税が80%かかるので売るわけです。そこへマンションが建つと子どもが増え、学校が狭くなる。一つだけ脱法行為がある。家や土地を神戸市へ寄付して頂いて奥さんを管理人として任命し、生きている限り、例えば月20万払うという契約を結ぶ。マンションも建たないし、環境も保全されるし、奥さんが亡くなった時に家をつぶして公園にすればいい。欧米みたいに同居が1割まで落ちて来たら、息子に対して自分の財産をどうするかという事が重要になってくる。相続というのは現在の社会では私有財産の観念にたってるんですからむしろ認める方がおかしい。相続が何故あるかと云うと、まず生活の保障であり、昔は相続がなければ政府も何もみてくれない。家族でみてきたから家族の財産は家族が相続する。又、生業についても、百姓でも、酒屋でも、その営業の財産は個人財産ですから、生業の継続という事があった。それから扶養してくれるという事の対価です。自分の息子は不肖の息子でもかわいいですから愛情の対象という事になる。サラリーマンというものはそういう事がない。相続は扶養の対価として自分らの子供とか、公共団体へ預けて、公共団体から若い女の子に来てもらう。YMCAへその財産を預けておいてそこからサービスを受け、死んだ時精算してもらうようなシステムを作ればいいわけです。パブリックサービス以外の所でなんらかの保障を見つけるようなシステムを考え出しておかないと駄目です。供給重視の経済からいきますと、キップ制というのがあります。若い時にボランティアで寝たきり老人を看護する。一日介護すると1枚のキップがあたる。それをためておいて自分が老人になって寝たきりになったら今度はそれを順番に使う。若い時に遊びほうけてたらあかんわけです。自分達でそういうグループを作っていってお互いが助けあうということです。これから国際化も高令化も、情報化、活性化もはじまりますが、

基本的には参加意識のあるような公益法人を作ってそこで蓄積をあつくして自分達の生活を守っていくというようなシステムを発達させて、そういうシステムに参加しているという人間は他の人より生活が安定し、充実しているということになる。日本は経済大国と云われるけれども市民生活の面からみたら、本当の意味の市民のストックが低い。欧米では10万くらいの人口の都市でもオリンピックを開催する能力を持っている。日本では100万都市でやっという事でそれだけ社会のストックが少ないわけです。これから如何にして参加のメカニズムを生かした機能集団を作って社会的ストックとか福祉サービスの能力のある組織を作り出していくかという事が重要になって来ます。そういうのが充実してくると国際化でもなんでもそういうグループで対応出来る。公共団体が国際化をやっても市長や議長が外遊して乾杯するだけなんです。一過性しかない。YMCAとか市民生協とか公益法人をいかにして育てていくかという事です。管理社会の中に一生いる人は、働くのは8分、あと2分は遊ぶか社会参加するという生き方を考えなければ将来徘徊性痴呆老人とか、粗大ゴミとか、そういう厄介なものになる恐れがある。管理社会ではどうしてもそこでエリートであるという事を考えますが、よく考えてみますと、終盤の20年をどう生きるかという事によってその人の幸せは決まるような気がします。管理社会ばかりに没頭せずに、しっかり考えて生きてほしいものです。

高齢化とこれからの社会

パストガバナー（精神科医）
森　滋郎

今日も新聞に「何故死に急ぐ中年のサラリーマン」と云う見出しで、37才通産省東大卒独身、キリンビール広報課長47才の自殺の記事が出ていました。僕は死んだ人が不幸だとは思わんけど、もしかしたら素晴らしい幸福感に満ちて死んだのかもしれん。早う死んだからあいつは不幸だと思うのは僕らの思い上りと思う。死んだ人はベストをつくして死んだんだろうとは思うけれど、後に残った奥さんやお母さんの事を考えたら、僕はそんな死に方はしとうないわね。

今朝早く僕はハレー慧星見ようと思って浜へ出ました。海いうものは見てたら楽しいですね。何故楽しいか云うたら人間が海から出来てきたんですね。落語の芝雀が面白い事を言うてた。「天気予報はなんで当らないんでしようね。それは天気は人間の生れるずっと前からあるのに後から出て来て天気を当てようなんかするからや。大体晴れ晴れ云うてても50％当るのにね」地球は53億年前に出来た。お月さんも同じ頃に出来てる。その時地球上には生命がなかった。海には水も波もあって風も吹いてた。雨が降ったけれども海の水には苔ひとつないきれいなもんやった。そこへ生物が出来た。何故生物が出来るか、チッソとかアンモニアがあるとこれが生物になる見込みがある。アンモニアの中の窒素や水素・酸素がチョコチョコとくっつくとアミノ酸が出来る。アミノ酸がチョコチョコとくっつくと蛋白質が出来る。蛋白質がチョコチョコとくっつくとそこで生命が出来る。27億6000万年昔に地球上に生命が生れたと云う事が今

分って来た。チミン、チトシン、リジン、アデニンの四つのグループがお互いに引っぱりあっている間にヒモが出来た。これがＤＮＡ。これが又ちぎれたり、ひっついたりしながら１本が２本になり、２本が４本、４本が８本になって増えるでしょう。これが生命の始まり。地球上のあらゆる生命は全部ＤＮＡで出来ている。大腸菌のＤＮＡを１としたら人間のＤＮＡは1000ある。いもりは、7000、ＤＮＡで言うと人間よりいもりの方が高等なのかも知れない。植物はもっとで銀杏、楓は10000も20000もある。生物でいくと植物の方が進化しているのかも知れん。案外神さんの目から見たら植物の方が動物より上かも知れん。おかしい事に皆さんのＤＮＡとごきぶりのＤＮＡは一緒、ごきぶりの方が先輩なんだよ。生命と云うものは適当に生き、適当に死ぬように出来てる。そんな中で、人間として充分やって、うまいこと死にたいと思うわね。皆さん方は、砂時計なんですよ。スーッと落ちて行く。止められへん。一刻一刻砂時計は落ちて行く。常に消耗している赤血球なんか４週間しか生きていない。それで我々はどんどん、どんどん赤血球を作っている。１㎤の中、男なら500万、女は450万ある。僕は女が男より長生きしよるのは結局血液が薄いからやと思う。狭い狭い細管の中を血が薄いと通り易いですね。男は血が濃いものだからねばつく。だから心臓がよけいポンプで押さな流れへん。おまけに煙草吸う人が多い。煙草を吸うと血液が濃くなっている。人間は組織がどんどんつぶれて行くのを一生懸命おぎなっている。爪でも髪の毛でも同じ次から次へ入れ替っている。人間は車や機械と違って部品を自分で作らんならん。最近は臓器移植もしますけど、本来は自分で作らんといかん。作る工場が人間にはあるわけね。さっき言うたようにＤＮＡと云う一つの型があって、それにリジンとかいろんなもんひっつけて同じものを作る。丁度子どもの頃粘度細工で、石膏の型に入れて作ったのと同じように、そして何回もつくっていると型があかんようになる。人間の寿命は型が何回つかえるかによって決まる。人間は125年が寿命だと云う事になっている。補乳動物は成長年令の５倍が寿命だと云う事は前から考えられていた。そうすると20の５倍だから100という寿命だと計算が出来るんだけど、私は人間が本当に成長しきるのは、はたちでは無理やないかと思うの。

大体、人間と云う動物は未熟児で生まれる。馬でも生まれた時から走りますね。僕はオリンピックの記録保持者の年令を考えた。水泳は15.6才で世界チャンピオン、棒高飛び、3段飛び、マラソンとかが30才くらい。技術とか精神力とかを考えたら25年くらいが成長年令と思う。キルクパトリックと云う女性の学者は24年と云ってる。つまり型が125年分あると云う事やね。けれども現在は80～90になると途中下車してしまう。皆さんも同じよ。現在125才、130才、140才という人がごろごろ生きている国がある。ギネスブックによると泉重千代さんは生年月日がまあまあはっきりしているので最長寿者とされているが、現在、長寿者の多い国としてアゼンバインヤン国、エクワドルのビルカバンバ、ヒマラヤ山の麓のハンザの三つの国があります。アゼルバイサン共和国でウオータールの戦いを知っているので164才位だというじいさんが見つかって、産経新聞の記者が密着して取材しました。昔からその地方は長生きしている事が分っていたんだけれど、塩がなくて食物がまづいわけ。バター、ヨーグルト、チーズは沢山ある。乳酸菌生材を飲むと乳酸菌が腸の中のバクテリアを押えて腹の中がきれいになって長生きするという事で乳酸菌生材が健康飲料になっています。例えばヤクルトね。ヨーグルトはお釈迦さんも飲んだと僕は思ってる。皆さん知っていると思うけど、お釈迦さんは無常を感じて地位の高い王子の位を捨て出家し、バラモン宗教に入ったけれど満たされず、ナイジャラン川に入った。そこで女の人が牛乳を持って来てそれを飲み、29才～36才まで菩提樹の下に坐って悟りを開いた。牛乳を捧げた女の人の名がスジャータ。新鮮な牛乳と書いてあるが、僕はヨーグルトやったと思う。涅槃教にこんな事が書いてある。「あたかも牛より乳、乳より酪、酪より生酥、生酥より熟酥、熟酥より作った醍醐みたいなもの」素晴らしいと云う事を醍醐味を味あうと云うでしょう。ヨーグルトとはどこにも書いてないが僕はヨーグルトと思うよ。我々は部品を自分で作る。何から作るんだと云うと食物ですね。血液も4週間で入れ替わっている。みんな食べて作るわけ、だから変なものを食べたらあかんというもの。コアラ、パンダ、かいこみんなそれがなかったら死ぬと云う食物がありますね。それが喰物と云うもので、喰物と生物はそんな関係がある事を思い出

して下さい。皆さん方はなんでも食べられると思ってたら大間違い。この原点を忘れてね、グルメ云うてこの頃の若い人がイタリアやフランスや云うて高級料理を食べますね。人間の喰物というものは神さんの定めたものがきちんとあるんですよ。馬に5000円のビフテキ、ライオンにこしひかり喰わすより、兎の方がずっといい、動物にはそう云う掟がきちんとあるんですよ。僕の家のシャム猫が17年も生きて先日死んだ。これは恐らく小鰺ばかりで育てたからやと思う。或る時、小鰺がなかって、ごまかしたら糞づまり起こして死んでしまった。外へ出したら草を食べてます。17年間1坪ほどの天地で小鰺ばかりで来たんかと思うよ。動物の食物は、歯を見たらいい。馬は草切り歯、ライオンには肉を切る牙がある。牛は前歯がなく、臼歯があり、胃袋が四つ、穀類を食べる。人間は前歯2本、犬歯1本、臼歯が5本。（$\frac{1}{4}$にすると）人間の喰物は草が2、肉が1、穀類は5なの。これは人間の本当の喰物。考えたら和定食やね。鎌倉時代、日本人の身長は180㎝位あった。鎧は大きいし、1㎞近い刀を片手で振りまわしてたんやね。日本は砂鉄がとれる。刀を作ったり、農器具や鉄の釜も作る。自然に鉄を沢山喰っていた。穀類も黍、稗、粟、胡麻も沢山食べていた。魚も食べた。徳川になって、殺生したらいかんと云う事を云うようになってから、日本人の体は小さくなって来た。明治の始めにしても小柄で日露戦争など背の高い人を兵隊にとっていた。今は皆さん大きいなって来たね。これは喰物とか生活の関係でしようかね。今、貧血している若い人が多いけど、鉄を喰べてない。鉄瓶、鉄鍋、鉄釜、鉄庖丁等使わなくなって、今はステンレスだから自然に摂る事がないのね。海草やホーレン草、大豆でおぎなう事は必要ですね。今、皆様が喰べている食物が果たして神様の意にそったものかどうか考えて下さい。東大の衛生学の調査によると、長寿国の人はこんなものを喰ってるのね。なつめを摂って干す、干リンゴを年中食べて欠かさない。コーリャンにとうもろこし、肉は羊一頭では村中が食べる。これは1年に1度のお祭の時くらい。魚は近くの池や川から取って適当に食べる。野菜は20種類ぐらい周辺に植えているものを適当に食べている。まことに単純で簡単なものを同じようにずーっと食べている。これが長寿の一つの条件ですね。今、厚生省がいろんなものを

食べるように指導しているけれど、いろんなものを食べている間はまだいかんのね。その中の素晴らしい物が決ったら僕はいいと思う。長寿国の人は太陽と共に起き、太陽と共に眠るという風なくらしをしてる。人間は正しいリズムで生活しているのがいいと僕は思うね。同じ時に同じものが入って来るとお腹の方でも消化のリズムに大変良いのね。急に沢山ごちそう食べて、あと又入って来ると思うと入って来ない。もう入らないのかと思うとドタッと入る。こうなると身体によくないと思うでしょう。人間はリズムが大事。それに食塩の摂り過ぎはいかんね。醤油を500g飲んで死んだ人や食塩の摂り過ぎで腎臓が止ってしまった人。食塩中毒で死んだ人。食塩とはこんなに恐ろしい。私はスープもたき込ごはんも塩が多いと思うと食べない。塩を除けていると段々舌が敏感になって来る。赤松と黒松の味が違うのよ。刺身でも醤油を少しつけて食べると、鯛なら鯛の、鮪なら鮪の味がする。チーズは辛いだからビールがうまい。素麺も塩でかたまっているから、非常に塩を沢山食べている事になる。食物の種類も考えんと駄目やね。人間は大脳で食べる。豚でも犬でもたらふく食べたらもう食べない。人間だけは美味しいからとか、もったいないからとか、損や得やと云う事で食べたりする。大脳が発達したためにずいぶん自殺行為をしているね。そんな食べ方は止めましょう。人間が神様から頂いた食物を正しいリズムで食べる事が大事。この食物の事について南米のブラジル日系の人の記録やけど、平均寿命が一世二世は70才なんですね。ところが三世になって来ると48才の平均寿命なんですね。非常に短くなる。ブラジルの日本人の連中が心配して調べてみると、結局食物ですね。一世二世は、非常にお野菜を食べる。ところが三世四世ぐらいになると肉ばかり食べて野菜を食べない。身体は非常に大きいけれども早く死ぬ。おすもうさんの平均寿命は48才ですね。長生きしない。あれだけ大きな身体を維持する為に肝臓が弱る。肝臓は非常に大事。おすもうさんは美食、食べ過ぎの典型的な例ですね。正しい食物を正しく食べているものが生き残って行くのじゃないですかね。

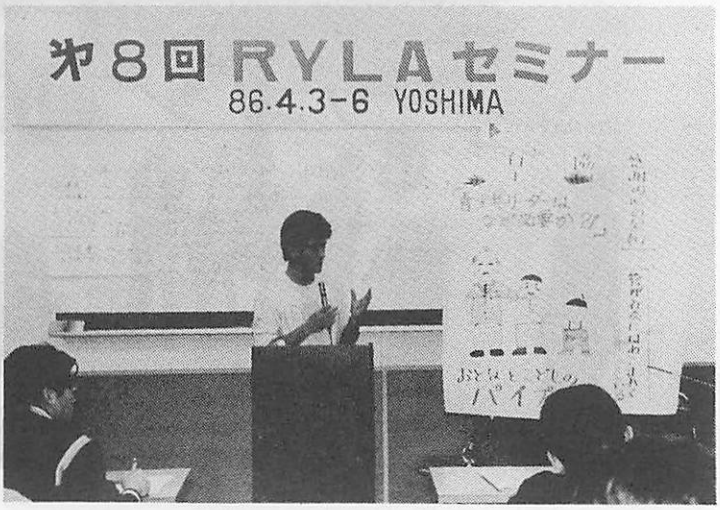
もう一つ、一番大事なこと、それは心なんですね。人間の心というものは、非常に身体に影響しとるんですね。先日私の病院に元校長さんだったおじいち

ゃんが入院されてね、85才くらいで非常に頭のいい方だったんですね。ところがおこりっぽくてわがままで思った通りする。息子さん達がいい息子でね、そのおじいちゃんの言う通りしとったんよ。それが段々困るようになって、長男さんが会社休んで相手をしたりしたけど、いよいよ困ってしまって相談に来たんよ。兄弟の一生懸命の孝行に免じて預ったんよ。おこりっぽい老人に良いお薬があるんだけど、薬を飲ますのに体の検査しなければならん。しかし、とてもあばれるの。仕方がないから縛った。土曜日の夕方でした。さあ、大変怒ったこの人はスト起してめしも食べない。次の朝も食べない。日曜日の夕方、胃出血で吐血したのよ。しばられたストレスで潰瘍起して出血をおこしたの。自由自在、わがまま一杯だった人が急にしばられたのでストレス起したのね。我々は、血圧は 120 、いざと云う時にピューと上って 180 くらいになり、又、元にもどる。小学生が50m走ったら 200 になった症例がある。血糖は80、いざという時には 120 になり、又、もとにもどる。ブドウ糖をグリコーゲンという型で肝臓に畜えている。いざという時、アドレレナリンが出て来る事によってグリコーゲンをブドウ糖に変える。力がでるわけ。心臓・脳・肝臓・胃袋の血管は木の枝のようになっている。それが途中でパチンと切れたらそこから先は血が通わないでくさる。心筋梗塞、血管がくさって、破裂して死んでしまう。イライラしてると脳卒中になりやすい。長生きしようと思ったらイライラしないこと。昔から長生きしている人は呑気な暖みのある人が多いのよ。食物、リズム、もっと大事なのは心だな。世の中にはストレスが一杯、そのストレスの中でストレスを上手に受けていく方法、これが大事ですね。ここへ来る船でサンデー毎日を見てたらね、サロン人間のすすめいうのがあるのね。これは集って話しあいするの。色んなサロンがある。全く違った会社の人と話をする。このRYLAがそうですね。ロータリークラブがそうですね。話しあいをするサロンと云うものが人間を非常に仕上げて行く。日本の企業の今迄の姿は、追いつけ、追いつけ、それが5年程前の会社の方針。今はトップレベルになって、いかにハーモニーするか、世界のハーモニーを考えると云う方向になって来ている。君はどんな事を知っているか、雑学的にどう云う沢山の知識があるかがこれか

ら大事になって来る。人間の厚みが大事やね。心は豊かやないといかんね。私とこの病院に460人精神病で入院しているけれど、共通点が一つある。頭の切り替えが下手。僕は今、一生の中で一番幸福。なんで云ったら、一生の中で今一番若いんよ。あしたになったら一日年をとる。一日一日年とるやないの。今日が一生の中で一番若い、そう思ってごらんなさい。今が一番楽しい時。心と云うものがどんなに大きな影響を与えているか。いかにすれば素晴らしい人生を送れるか、本当の人生とはどんなものか、その事を考えてみて下さい。今が一生のうちで一番若いとき、一番楽しい時と思って下さい。

フォーラム

―バスセッションより―



バズセッションのまとめ

テーマ

Ⅰ　私達の住んでいる地域社会の弱点はなにか

Ⅱ　ロータリーに望むもの

A・A′グループ

Ⅰ）1.　子供の問題

a　環境　b　親　c　教師　d　自然環境　e　塾

f　校内暴力・いじめ

2.　青年の問題

a　青年団々員　b　施設　c地域の理解　d　目的の欠如

e　ローターアクト　f　若者の流出　g　祭り（若者会）

3.　壮年層　30才～40才

a　交流の機会がない　b　施設　c　地域とのつながりがなくなる

4.　老人

5.　地域

a　住民運動　b　村おこし　祭　c　無医村　d　閉鎖性

6.　行政

a　計画性の欠如　b　人材　c　ワイロ

Ⅱ）ロータリーに望むこと

a　実質的な行動を

b　30代～40代に対する対策

c　老人対策

d　子供の遊び場

B・B′グループ

I）a　親が地域活動に参加したがらない。

b　地域によって住んでいる年令層の差がはげしい。

c　青少年に自主性・奉仕の精神が芽生えているのに、その場に出たら発揮されない。

d　子供達に自由な時間がない。

e　文化施設が少なく作られても利用者が少ない。

f　高齢者と青年との接触の場がない。

g　市の地区内の連絡不足

h　リーダーの人材不足

Iの原因

a　地場産業がない。

b　行政と地区との連絡がない。

c　自己中心的である。

d　余裕がない。

e　その地域にとじこもって満足している。

f　やる気がない。

C・C′グループ

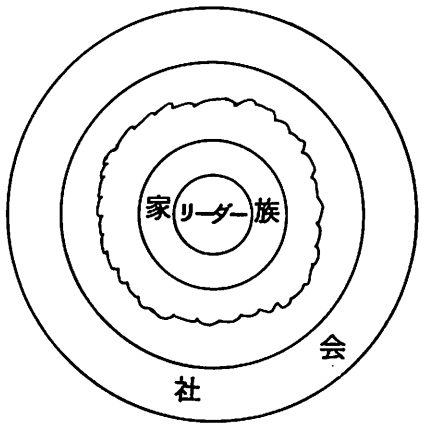
I　現状と問題点

自主性がない ＜ 親がなんでもやってくれる
　　＜ してもらって やってもらって　あたりまえ

協調性がない　　過保護

感謝の心の欠如　　管理社会にはめこまれている

リーダーをとりまく環境



身 ―――― 身をもって

口 ―――― 言葉で

意 ―――― 真心をもって

の
三業 ―――― 行　動

D・D′グループ

a　地域と社会との分離

1）昔から続いていた集団の解体

・新興住宅・農村の都市化

・生活共有部分の減少（近所との交際が少ない）

・祭りの形成化

2）生活の個人化　　核家族化

・自分の生活に追われ、何かしたいと思っても踏み切れない。
ゆとりがない。

・暖かさがない。

・社会性を持った個人としての意識の減少

ex 独居老人、障害者、被差別部落

・遊ぶ集団と空間が奪われている。

ex 学校に必要な子どもづくり

3) 地域の情報社会化 → マス社会へ

・地域とは知域・地育 ← 集団の肥大化

・受け手であり、つくり手でなくなっている。

b 対策

1. 子供達の自主的な活動が出来るような体験を与える。
2. 何かを経験し、気づいた人間がその体験を誰かに伝えていく事により仲間を作っていく。
3. 一人一人に社会参加を促す啓蒙活動を続ける。
4. 井戸端会議のような雰囲気を作るよう一人一人が努力する。
5. 人との触れあい、出合いを大切にする。

II

1. 少年・少女に自由な解放的なキャンプ等の経験を与える。
2. 青年を集め意識を高めるようなプログラムを持つ等の啓蒙活動
3. 子供会への経済援助
4. おもちゃライブラリー等への経済的援助
5. 地域毎に奉仕活動をしている人々を集めて会を持ち意見を出してもらう。

フォーラム

リーダー（司会）　深川純一
副リーダー　江藤一明

司会者　唯今からフォーラムを始めます。先程のバズセッションの発表の中でC班から「青少年のリーダーは何故必要なのか」と云う問題が出ておりました。これには大人と子供とのつなぎ役――パイプライン――と云う意見が出ておりました。この意見について、それだけに限られるのか或いはもっと他の役割があると思われるのか、又、C班で意見を補足される場合も含めてご意見がありましたらお出し下さい。

フロアーより　パイプラインと云うのは、子供が大人（親や教師）には云えないが、我々の年代には話せる。大人と子供の意志の疎通を防ぐために必要な年代と云う事で取りあげました。

司会者　リーダーの役割として、そのほかにもあると云う意見のある方は？

フロアーより　C班の考え方の他に同じ年代の中でもリーダーであって欲しい。自分の研修した事を（例えばこのRYLAの経験）同年代に伝えると云うのも大事な役割であると思う。

フロアーより　大人――リーダー――子供と云う縦の系列、同世代と云う横の系列、その他に縦と横との間に自分の意見を補足してうまく伝わるようにコーディネートする役割もあると思います。

フロアーより　リーダーの範囲を青年層にかぎらず、もっと広くとらえ、30代、40代の壮年層には、壮年層としての役割があるのではないだろうか。あえて大人と子供を結ぶととらえる必要はないと思います。

フロアーより　連絡調整係と云うことの他に新しいものを創造してゆくものでありたい。

司会者　リーダーの範囲の問題でありますが、青少年リーダーを指導する壮年層のリーダーも含めて広いとらえ方で結構だと思います。

フロアーより（カウンセラー）　青少年リーダーと云うのが、そもそも非常に漠然としています。リーダーシップの中味との関連において出してみたらど

うでしようか。

司会者　少し中味の整理をしてみましよう。このRYLAと云うのは、各種の団体で子供達を地域で指導しているリーダーに対して研修交歓して頂く場を提供しているわけです。年令的にはいろいろあるでしようが、基本的には子供達を指導してゆくと云う線でお考え下さって結構です。リーダーの役割の面で他にもご意見があったら出して下さい。

フロアーより（カウンセラー）　リーダー自身が、ストレートで進学したリーダーと自分自身がつまづいた経験のあるリーダーとがあった場合、子供達自身の苦しみの経験を判ってもらえるのは後者だと云う話を聞いた事があります。

リーダーになる時に、非常によく出来た人がリーダーになることがかならずしも良いとは限らない。リーダーの資質の問題とも云えることです。

司会者　人は自分の持っていないものを他人に与える事は出来ないと云われています。リーダーの知識・実戦・生活体験の中から思索があってはじめて何かを得ることが出来、それを与える事が出来ると思います。

非常に謙虚にリーダーと云う事を受け止めてこそどんな子供の話も判ってやる事が出来るのではないでしようか。

フロアーより　大人と子供のパイプラインと云う事がひっかかっていますが、青少年指導者は子供の面倒を見るだけではない。実践の中で何をなすべきか模索しています。青年団・ローターアクト・若者会の活動も含めてもう少し広義にとらえてほしい。

司会者　実は青少年リーダーは何故必要かと云うテーマに対して大人と子供のパイプラインと云う事がポンと出て来たので、もっと他にも重要な役割があるのではないかと云うことで、このような討論のすすめ方をしているわけです。

先程の創造性の問題の中で今の社会の価値感を正していくと云う使命感も青年は持っていると思うし、そこに青年の存在価値もあると思います。フォーラムは決議をする場ですから、沢山の意見を出して頂きたいと思います。

ご意見が出ないようなら、自主性がないと云う点に移りましょう。この自主性とは地域社会に自主性がないのか、或は個人なのか、取りあげられたC班ではどのように考えておられますか。

フロアーより　子供自身に主体性がない。子供に与えられるものが多過ぎて自分でしたい事さえ判らない。創造性が虫ばまれ、生活そのものが安易な方向に流れていっているような気がします。

フロアーより　僕はYMCAでリーダーをしていますが、自分を含めて何がしたいか、選択は出来るが、内容を作ってゆく事は出来ないという人間が多くなって来ています。そう云う人間が子供達に影響を与えようとしているのだから、これから子供達に自主性を持たせる事は非常にむづかしい。その分、リーダーも本当に気合いを入れてやらないと、ますますその問題が大きくなると思います。

フロアーより　私は海洋関係（ヨットやボート等）の仕事に携わっていますが就職した位の年令の人が来て「僕に出来る面白いことはありませんか」と問われる事があります。自分自身で遊び方さえ判らないわけです。

フロアーより　少年団の指導者をしていますが、指導者（大人）がスポーツの場でもうまく出来る方法まで教えてしまう。

自分達で考え、体験をしてゆく過程を与えない。親をも含めて指導者が子供を作ってゆくと云う実体があります。

司会者　色々な体験談があって、今少し原因の指摘もあったのですが、どう云う原因によってそのような子供達が出て来たのでしょうか。その点についてご意見を伺いたいと思います。

フロアーより　子供達に問題はありますが、決して悲観はしていません。我々の小さい頃と位べて特に悪くなったと云うことではなく、子供と云うより、むしろ青年一般（リーダーを含めて）に問題が来ているのではないかと云う気がします。

フロアーより　考えられる原因として地域環境の問題があると思います。自然が破壊され、例えば公園にしても人工的に造られる場合が多く、子供達が創

意工夫して遊ぶ場が失われています。又、精神的な面でも大人が合理性を求め、子供の発想より大人の考え方が正しいと云う態度を前提としている場合が多いです。

フロアーより　今の親自身が子供の頃出来なかった事を子供にさせてやりたい一心で子供から要求の出る前に与えてしまう。日常生活においても過保護で生活水準が豊かになる事によって子供が損われている部分があると思います。

フロアーより　自分が子供の立場で云うなら、親は放っておいてくれたらよいと思います。親が先手を打って上から与え過ぎていると思います。我々は豊かな時代に育ったのでむしろ何かを求めている模索の世代だと思います。

フロアーより　今の親自身がまだ子供であって、成長していないと思います。むしろ親の問題だと思います。

フロアーより　学校教育の知識偏重にも問題があります。

フロアーより　世の中一般が普通が一番良い。はみ出す事を恐れているのが社会全般の気風であり、そんな所にも原因があると思います。

フロアーより　今の子供達は自主性が無くなっていると云ってもゼロではないのです。リーダーが自主的要素を投げかけると子供も反応します。マンネリの計画でやってしまうリーダーにも責任があると思います。

フロアーより　私も同じ意見です。子供から出てくることをどこまで待ってやれるのかリーダーにも問題があると思います。

司会者　先程からやる気のない子供にどうしてやる気を起させるか、原因は何かについて話し合っていますが、環境・親・教師・リーダーに焦点がしぼられて来ました。しかし、簡単に親とか、教師とかで片づく問題でしようか。

フロアーより　リーダーは子供達に独創性を持った子供達になって欲しいと思っていられると思いますが、独創性とは何か。私は一人で創るものだと思います。今の学校の教育の現状では受け入れられない場合が多く、その点リーダーは学校の指導要綱でしばられないで自由に教育出来る素晴らしい立場だと思います。

司会者　東北のある小学校で「氷がとけたら何になるか」を教えようとして先

生が子供に質問したところ「氷がとけたら春になる」と云う答が返ってきたという話をきいたことがあります。冬の長い東北の子供らしい実に素晴らしい答だと思いますが、教師としては「氷がとけたら水になる」という答を期待しているわけで「春になる」では困るのかも知れない。しかし、その場合に、もし、「水になる」という答以外はダメだという教え方をしたとすればそこからは、もはや子供の独創性など育たないのではないかと思います。他にも今の点についてご意見のある方は？

フロアーより　現在の子供について主体性がないと云う意見について、その原因が探究されているのですが、私はそう云う問題のたて方自体が納得がいきません。と申しますのは我々の子供の頃に主体性があり、独創性があったかと申しますと、かならずしもそうとは云えません。子供は子供なりの一つの見方を持っているわけです。主体性や独創性は我々の大人の考え方であって子供に押しつけるのではなく、そう云うものが出て来る状況を我々が作ってあげればその中で出て来るものではないかと思います。そう云った原因を追究してみてもあまり意味のないことだと思います。

フロアーより　私は今の御意見には反対です。こう云う問題は子供全部がそうだと云う建前で話すのではなく、一部でもこう云う子供があると言う事でも大事なことです。我々の子供の頃から比べると、そういう主体性のない子供が確実に増えているのが現状です。その原因を考えてゆくことは、少なくともリーダーとしては必要があると思います。その中から地域にあい、自分の活動や能力にあった事を少しでも役にたてるようにこのセミナーに来るわけです。こう云った話をマジでやれるようでなかったら大変だと思います。

フロアーより　子供の現状分析をしてみても意味がないと思う。自分が社会の中で老人・大人・子供と大きく分けて夫々にどう向きあっているかを考えたい。

司会者　問題のとらえ方に二通りあると云う事が判ったと思います。それを基にしてとにかく議論をすすめたいと思います。

地域社会は昔と今と同じなのかどうか。到達する所は同じかもしれませんが、

少し道を迂廻して地域社会の変化についてのご意見はございませんか。

フロアーより　地域社会の生活共有部分、物事を共有する部分がなくなっていると思います。

フロアーより　昔は生活集団、学校、職場等の枠内での連帯感があったが、それがだんだん失われて来ている。豊かになるにつれて人と人との結びつきが弱くなって来ていると思います。

フロアーより　地域の結びつきの中で、地域が小さくなると親密にはなるけれども知られたくない事まで知られてしまう事があるし、又、結びつきが弱くなると一方では気楽だけれども当然みんなでしなければならない事（例えば町の掃除等）まで行政の力を頼るようになったり、どちらも一長一短だと思います。

副リーダー　青少年問題と云う観点から捕えると悪い方が多いのではないかと思います。昔は隣組で近隣との結びつきが強かったが、今は我関せずの人が多く、これはやはりマイナス面と思います。子供は社会の宝と云う考え方で子供が悪い事をしたら、誰もが叱るようでなければ駄目だと思います。

フロアーより　村では若者は都会へ流出しているし、都市でも自分の生活の場で仕事を持っている人は非常に少ないこと等からどうしても地域に対する意識が薄れてゆきます。それによっても青少年活動がしにくくなっているのが現状だと思います。

フロアーより（カウンセラー）　私の住んでいる所でも新しい人が引越して来られても挨拶もないような現状で、私にとっては気楽ではあるけれども、いつかおつりが来るのではないかと恐れています。自治会もありますが、赤い羽根募金やお祭りの寄付集めくらいのもので、近隣とのつきあい上参加しているようなものです。今日、高寄先生もおっしゃいましたが、自分の持っている能力を出し合って助けあうのが本当のコミニティだと思います。勿論、一方では都市の中でのコミニティづくりを一生懸命やっていられる方もありますが――。

フロアーより　中途半端な都会では故郷意識が希薄になって来ています。人間

としての短い一生のうち、色んな人と出合い、色んな人から学んでゆきたいと思いますから、人間関係をもっと緊密にしてゆきたいと思います。子供達の関係も同様に冷たいと思います。

司会者　いろんな意見が出ましたが、農村社会でのコミニティと都市社会のコミニティの二つの面があると思います。

昔は村落共同体の中でのコミニケーションが親密でした。コミニティとはコミニケーションのある社会の事を言うのですが、産業革命をはじめとし、社会の技術革新によって、都市に人口が集中し、農村が過疎になって来ました。人口は膨脹してもコミニケーションがなくなって来ています。農村も都市化によって昔から住んでいる人と新しく移り住んだ人とのコミニケーションが希薄で都市にも農村にもコミニケーションの欠落が見られます。コミニケーションの欠落した社会をはたしてコミニティと云って良いのかどうかと云う危惧の中から最近コミニティと言う事をさかんに言い出しているわけです。日本は単一民族ですからあまりそういった事を深く考えなくても今迄来られたのですが、多くの人種の集る外国ではどうしたら自分達の住む所が快適になってゆくのかと言う事に関してみんなが関心をもって実行しています。地域社会の弱点について対策も含めてもう少し御意見を伺いたいと思います。

副リーダー　「いじめ」は昔からあったのではないか、と云うことが云われますが、昔は子供の喧嘩はよくしましたが、今のいじめとは全然違うと思います。喧嘩をするやつほど仲良くなり、一生涯の友達となったものです。「いじめ」と云うのは自分より弱いものを寄ってたかっていじめる事であり大変陰湿です。昔の喧嘩にはルールがあって自分より下の者としてはならない。弱い者いじめは恥かしいことなど、喧嘩の中で社会的なルールを覚えてゆきました。そんな事が今の「いじめ」とは違うのではないかと思います。

フロアーより　先程、学校教育の問題が出ていましたが、成績によって子供の価値判断をする、いじめの問題もこの価値判断によって生まれて来ます。これは学校教育だけではなく、社会全体が子供に対する価値感をどう持ってゆくかによって出て来ると思います。

フロアーより（ロータリアン）　学校教育のパターンに問題があると思います。ワンパターンで記憶さす事ばかりに重点をおいている。子供達は将来の目的を持っていないし、大人も又そうではないかと思います。かっては豊かになる事が目的であり、がむしゃらに働き、その過程の中で自分の事しか考えない事が身についてしまった。それを見て子供達が勉強ばかりを大事にするようになってしまった。世の中全体が目的を失い、これに従っていろんな問題が起って来ていると思います。

フロアーより　価値感の変化によって無駄を排除してゆく事が良いと云う風調になって必要な無駄さえも切り捨てられているのではないでしょうか。（ex無駄と判っていても子供に経験させる事で次のステップを自分で見つけてゆく）逆に物質的な無駄が多くなっている。（無駄な消費をも含めて消費による産業の発展につながっている）

司会者　高度経済成長によって効率だけを追い求め無駄をはぶき役にたつものだけを大事にする思想が生まれ、学校教育が成績のみで生徒を評価することも、こう云った思想から来ていると思います。無駄の効用と云うのも大事なことだと思います。地域社会が変ったと言うのは、単に現象として変っただけでなく、人の思想の面でも変化をもたらしていると思います。この辺について御意見があれば――。

フロアーより（カウンセラー）　確かに地域社会も家庭も学校も変っています。私は家で家庭文庫をしていますが、本を読みに来る子と、ただ、かくれ場として来る子と、親がその場所なら認めているので鞄を置いて遊びに行く子とか様々です。夫々の持っている子供の状況を変えてあげる事は出来ないが、一人時でも子供達の心が安らぐ場所、ありのままを受けとめてやれる場所が地域社会に沢山増えて来るといいと思うし、地域社会の活動として大事なような気がします。

司会者　現在の社会をふまえて対策論に入って行っても結構です。何か御意見は。

フロアーより（ロータリアン）　現在はいろんな意味で戦後のつけがまわってきている時代です。21世紀は心の時代だと言われて来ていますが、21世紀を

待たずしても、昨日、今日の講演でも示唆されているように今から考えなければいけない事だと思います。

司会者　現状についての対策と言っても大人の立場から勝手な尺度で子供を見てよいのかと言う気もします。現象としての歴史は無限に変化して行きますが、その過程で子供が何を訴えようとしているのかを見、又、考える必要があるのではないでしょうか。その点が夫々の立場（親・教師・リーダー等）に欠落しているのではないかと云う気がします。発想を変えてそう云う立場で見た場合ご意見があれば――。

フロアーより　子供達が自分で発想し、活動出来るのなら教師はいらないことです。教育は叱るのではなく、ちよっとした長所をほめる事によって引き伸すことが大事です。小学校では人間的な良さを引きだそうと思うけれども、中学・高校に行くに従って親のニードと合わなくなるのが現状です。

司会者　福祉社会・情報化社会・国際化社会等と言っても一人一人が自分の事しか考えない。自分の尺度で総ての事を計っていくことがあれば、やっぱり進歩がないのではないかと云う気もします。

フロアーより（ロータリアン）　今の親自身が大人として成長していないように思います。大人と子供はどう違うのか、子供は何かを求め、大人（親）は与える意識に立った時、大人と云えると思う。リーダーもリーダーの役割を自覚して、子供を抱く働きが必要と思います。人間としての原点、暖かみを身につけ、実践の中で子供に教える必要があると思います。

司会者　バズセッションでB班から子供に体験を与えると云う事が出ていましたが、具体的にもう少し説明を。

フロアーより　自分がRYLAで体験した事を、ロータリーがもっと次の人達にも与えてほしいと云う事が出ました。

フロアーより　YMCAで活動していますが、我々リーダー自身の活動が自主的なものでなければならないと思っています。

それを見て子供は育ってくれると思います。僕は背中を見ての教育が大変大事だと思います。背中で物を語りかけることの出来る人に一番魅力を感じま

す。それが子供に与える事の出来る体験だと思います。

フロアーより（カウンセラー）　現在の社会の中には様々な問題があります。でも、こう言う現実の中で毎日子供は育っているのです。背中で教えると云う事も時間のかかることです。今、子供との触れあうなかで小さな事も大事にしてほしいと思います。

司会者　一人一人が自分の身の周りから努力してゆく他ないと思います。地域社会の変化によって親の働く後姿を見る事が出来なくなり、子供の育ち方にも変化が起りました。そのような子供達とどうかかわってゆくのか、リーダーとしての悩みはつきないと思いますが、自主的な体験の出来る事がもっと他にもあったら話して頂きたいと思います。

フロアーより　確かに父親の後姿を見る事は出来にくい状況ではありますが、母親なり周りの人が伝える事は出来ます。母親の態度が大事だと思います。

フロアーより（ロータリアン）　子供に対して家庭の中で出来ることが沢山あると思う。簡単な事だけれども積み重ねてゆく事が大事。

司会者　先程、後姿の問題が出ましたが、対策論の形で具体的に言えば、例えばリーダーは自分自身が研鑽しなければならないし、自分を磨けば自然にそれが子供達に伝わるのじゃないかと思います。これは非常に大事な所であると思います。又、父親とか母親とかの問題も沢山出ましたが、子供達は非常に敏感に父親や母親を見、敏感に影響を受けています。一般に両親が離婚する事は子供にとって大変不幸なことだと考えられており、それは一応その通りですが、では離婚しなければ子供は幸せかというと、そうは云えないと思います。ケストナーという人は「両親が離婚したために不幸な子供は沢山いるが、両親が離婚しないために不幸な子供も同じ位沢山いる」と云っています。青少年問題を解決する時、常に一方的な尺度で物を見てはいけないことだと思います。例えば民主主義の視点から見ると封建的で（厳然たる家長制度）駄目だと言われている白川郷の大家族制度が福祉の視点から見ると、その中から出てくる弱者を血縁による愛情によって暖かく守っていくと云う福祉社会の原型パターンであることでも判ります。物事は決して一面だけを見てはならないと言う事はリーダーとして大事なことの一つだと思います。又、教育の問題にしても学校教育・家庭教育に加えて、それらの分野に入らない、

リーダーを中心とする教育が大事なことの一つと思われます。対策の問題で今の現状を踏まえて他にご意見がありましたら。

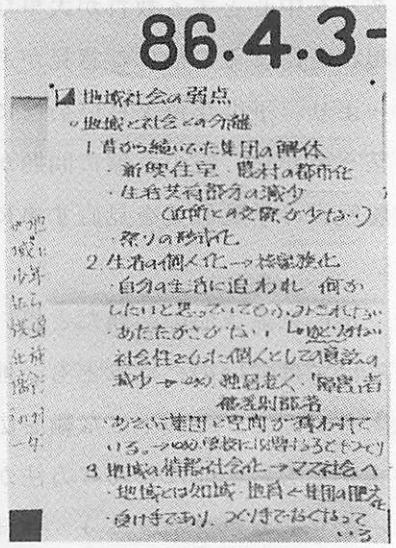
フロアーより　子供が将来良い会社に入る為には良い学校に入れないといけないと言う事から、親の意識に問題が出て来ます。対策としては企業が採用の時、履歴書の学歴偏重を見直す事によってずいぶん変るのじゃないかと思います。

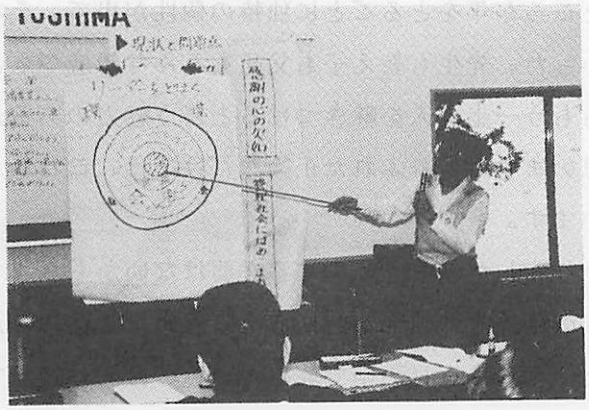
司会者　正に意識革命の問題だと思います。対策と云っても意識革命が簡単に出来るはずはないのだけれども、地域社会の中で、自分のまわりから少しづつ意識を変えて、その小さな輪を広げて行くしか方法がないのではないかと思います。もっと他にこんな方法があると思われる方は？

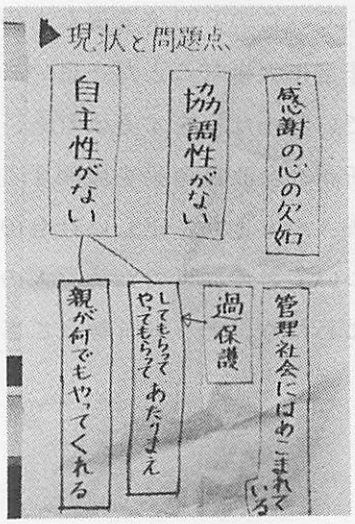
フロアーより（カウンセラー）　今日、四国の地田高校が優勝しました。その要因の一つは蔦先生だと思います。蔦先生はかっては決して評判の良い人物ではなかった。ところが年をとるごとに独特の個性が出て、それに魅かれてみんながついていった。先生も教え子も父兄もみんな親戚づきあいです。リーダーの皆さんももう一歩、人を魅きつけると言う魅力のある人間になるべきじゃないかと思います。ありふれた正論派だけでは、これからの子供はついて来ないと思います。

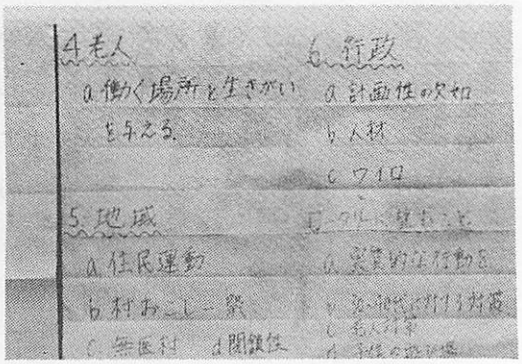
司会者　時間がまいりました。まとめをする必要はないかもしれませんが、指導者の原点と言うのは非常にむつかしかろうと思います。皆さんも、今日のフォーラムで出たいろんな意見の中で取るべきものはとり、捨てるべきものは捨てて、リーダーの良心において、ご自分の判断で考え見直して頂きたいと思います。そして皆さん一人一人が核になって、このRYLAで得たものを地道な草の根の運動として広げてゆくことが非常に大事なことだと思います。ロータリークラブもクラブの名において団体でいろんな事をするよりも、ロータリアン個人個人が自分の身のまわりから所謂社会改良運動を展開するのがロータリーの本旨です。ロータリアンも、皆さん方と共に正しい社会のあり方、正しいリーダーシップの発掘の仕方について考え、世のため、人のための努力をしてゆきたいと思います。長時間にわたり、どうも有難うございました。

▶現状と問題点
自
協
感
「青少年リーダーは
なぜ必要か?!」
おとなとこどもの
パイプライン

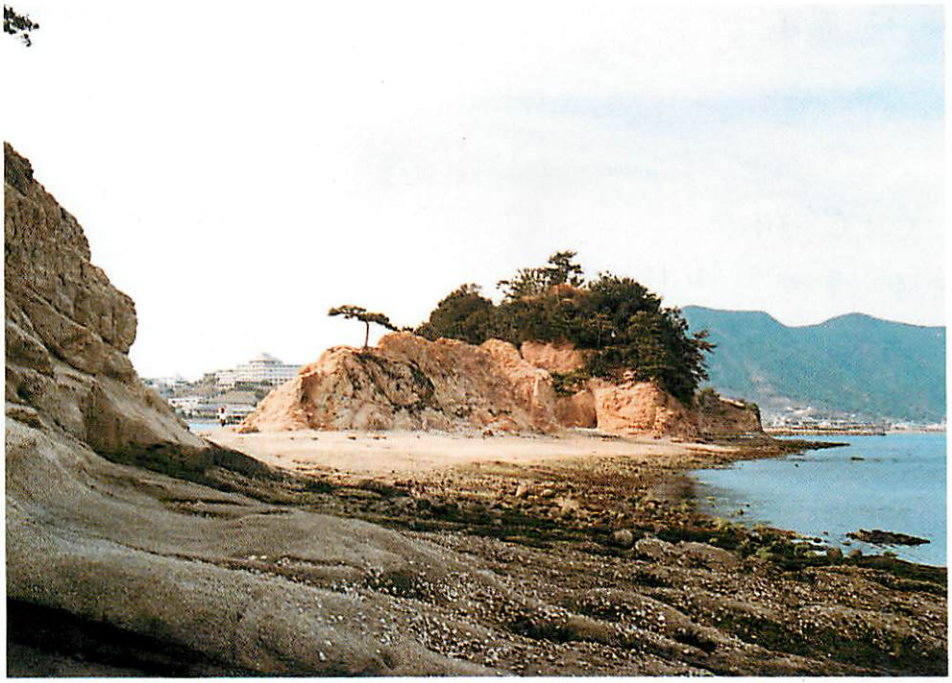

86.4.3-
地域社会の弱点
○地域と社会との分離
1.昔から続いた集団の解体
・新興住宅 農村の都市化
・住者共有部分の減少
(近所との交際が少ない)
・祭りの形式化
2.生活の個人化→核家族化
・自分の生活に追われ 何かしたいと思っていても
・あたたかさがない
社会性をもった個人としての関係の減少→
・あたい集団と空間が離れている。→
3.地域の情報社会化→マス社会へ
・地域とは知域・地縁と血縁の間を
・受けまであり、つながりでなくなって
いる


YOSHIMA
▶現状と問題点
感謝の心の欠如


▶現状と問題点
自主性がない
協調性がない
感謝の心の欠如
親が何でもやってくれる
してもらってやってもらってあたりまえ
過保護
管理社会にはめこまれている


4.老人
a.働く場所と生きがいを与える
6.行政
a.計画性の欠如
b.人材
c.ワイロ
5.地域
a.住民運動
b.村おこし祭
c.無医村 d.閉鎖性

参加者感想文



A・A′班

嶋田 邦彦
三浦 弘
白川 博
義則 敏彦
熊野 浩
三井 精一
藤田 晋作
江見 友雄
中山 哲也
谷村 正道

妹尾 ひづる
四宮 賀代
坂哀 美枝子
小西 智佳子
橋本 礼子
新上 小百合

カウンセラー
木村 公明
高畑 洋

B・B′班

北岡 弘
須賀 誠
長尾 恵章
立花 康弘
泉 一人
樋山 政己
鷲尾 引燃
中谷 康彦
井藤 章弘
桧垣 雄介

大北 貴子
福井 彌生
南郷 裕美子
大川 展子
吉田 章代
三浦 由紀子
吉良 佳子

カウンセラー
三木 明
関 淑子

C・C′班

井本 学明
森崎 真介
片平 将晴
井下 強志
下村 拓磨
福田 昌志
立岩 英樹
関村 佳樹

西村 明子
岡田 多恵子
黒田 裕子
市橋 初美
大森 信子
廣井 佳代
安西 美保

カウンセラー
東 敬三
武貝 延也
橋本 知恵子

D・D′班

南 久雄
長谷川 勝好
中條 輝宗
和田 博孝
新川 吾浩
酒井 移穂
貴伝名 光昭
久保 治泰平
藤原 慎吾

高田 安美
三上 展
村田 晃子
柴田 由美子
黒田 恵美
住友 明子
安藤 明美

カウンセラー
菊沢 建明
林 真紀

A・A′グループ

江　見　友　雄

四日間の思い出は、それぞれの時間の中で、強烈に思い出されますが、何といってもおどろいたのはフォーラム時間です。世の中に、こんなに多くの意見をもった人達がいるのか――。とおどろいたのと同時に、前向きに一生懸命取り組んでいる熱意に実に感動しました。それは、何となく生活している今の僕にとってモーレツな刺激になり、一生に何度という大ショックだったのです。本当にためになりました。本当にヨカッタです。又、4日間を通じて知り合えた仲間たちと語り合ったことは、自分の目の前だけを見ていた今までとは違って大変新鮮であり、又、楽しい時間でした。そして4日間のセミナーと、この余島の自然とで学び得た事は、今後の僕に十分生かされるはずです。いただくところは全ていただきました。

このセミナーで知り合えたみなさん！

洒くさい101号！

池高優勝！　バンザイ

ありがとう。　またね

三ツ井　精　一

3泊4日、ほんとうに時間のたつのが速く感じました。レクリェーションやバスセッションを通じて、みんなと話し合ううちに心を開いていくことができました。その結果、夜遅くまで昼間の続きで、各々の意見を交えて、自分の考えのあまさを感じさせられました。時間のたつのも忘れて、討論に熱中したことはありませんでした。気がついたら、窓の外が明るみを帯びていました。

思索の時間というのも初めて経験しました。1人になって自分をみつめることができました。余島の自然をながめるうちに、今までこみいった町の中では得ることのできない“すがすがしさ”を感じることができました。人間は自然

とは切っても切りはなせない関係であると思いました。

この余島の自然にふれ、みなさんとともに、一生忘れられない経験をし、真の友情の姿を知ることができました。友達というのは一生の財産です。最後にみんなで歌った歌は決して忘れることはありません。

この余島を後にしてからのことが大切です。明日からの生活の中に、このセミナーで得たことを実行し、また、フォーラム、講演のノートを読み返して、再びじっくり考えてみたいと思います。わたしの地域社会に帰ってから、何か一つでも社会の役に立ちたいと思います。

何年か後、また同じメンバーで集まり、新しい体験を話し合いたいです。最後に、こういう出合いをあたえてくださった、ロータリアンの皆様に深く感謝します。

三浦　弘

人との出合いが、これほどすばらしいこととは、今まで思わなかった。さまざまな年令の仲間が、さまざまな場所から集まり、学生あり、公務員あり、自営業あり、非常にバラエティにとんでいた。最初の夜から“親睦会”があり、夜中まで語り合った。2日目も3日目も、生き方について真剣に議論したり、歌ったり、とてもすばらしかった。そのためか、寝不足で4日目は頭がボケーとしていたが、講演中はいねむりもせず、頑張った。

人と出合い、自分の生き方の甘さを感じ、学ぶことの多かった4日間だった。今後の人生において、忘れることができない4日間になると思う。

本当にみなさんありがとうございました。

日程についての要望は、もう少しバズの時間をふやしてほしい。2時間足らずでは、今から議論が本格的になるときに、時間がきてしまって残念であった。

熊　野　　浩

僕は、このセミナーに参加した時と、今は大きな差があると思います。

このセミナーで「人との出会いとは何か」「己は何か」「友とは」「……」と多くの物を学びました。4日間を終った今わかれることの偉大さを知りました。

セミナーの内容については、講演のテーマ、講師の選択、普段あまり聞けなくて興味のわく内容で、大変ためになった。一つだけ希望は、部屋はしめ込んで、2時間もたつと空気が汚れる、頭がまわらないと思います。窓はしめ切らず、開放してほしかった。

また、連日連夜の班での宴会、大変つかれましたが、ほんとうに楽しいことばかりです。さすがに　リーダーといわれるだけあって（中には指導者もいますが……おとうさん）活発で、ゲームもとび出すは、下ネタは出るは、おもろかった。

本当にA班の皆さんありがとう。また合いたい人ばかりです。

最後に、私は仕事がら多くの人に出合いますが、このA班みたいな人に会えるのは、もう二度とないと思います。

自分たちは自分の範囲で物を考えていたらいつかはいきづまる。人を理解し範囲の広い自分は1人でも多くの人に物語をかたれる。

人は人と出会い　人と語り　磨かれていく
磨かれた人は　物語を語り　微笑を与えられる
ロータリアンのように――――

また会いましょう！

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

白　川　　博

今回、初めてライラセミナーに参加して一番感じたことは、「人との出合」ということ。267地区、268地区からさまざまな職種の人、いろいろな考え方

の人、また、バラエティに富んだ人生経験の豊富な人などと接することができ、意見を交換し充実した日々、3日3晩とも夜遅くまで語り合えたこと、豊かな経験を聞けたことが何よりの収穫でした。

大変お世話になりました。ロータリアンの皆様方、近江岸所長をはじめとする余島の皆様、本当にありがとうございました。

★ ★ ★ ★ ★ ★

中　山　哲　也

残り少ない春休みを利用して、このセミナーに参加したわけですが、思っていたよりずっと自由で、ずっと楽しいセミナーでした。スケジュールも、ゆとりたっぷりに組まれていたように思いますし、何もおしつけがましいものがなく、何をするにも本人の自主性にまかせられていたのがとてもよかったです。特に、各キャビンにかぎがついていないっていうのを聞いた時は感心しました。余島はとってもきれいで、参加した方は皆さんいい方だし、こんな社会だったらどんなにいいだろうなあって感じました。

このセミナーを終えて、一番に思った事は、まだまだ自分は視野の狭い若僧だと思いました。いろんな職種の方や、年上の方の意見を聞いているうちに、あっ、こういう考え方もあるのかと、考えさせられることがしばしばでした。一つの物事に対し、あらゆる角度からメスを入れて考えてみるのは、難しい事だと感じました。

最後に、このセミナーで不便に思った事を書かせてもらいますと、まず、入浴時間が、夕食の時間と重なっていて、その後すぐに夜のプログラムがつまっていたので、ゆっくり入浴することができなく、少し不便に思いました。あと講演の時間が少し長すぎるようにも思いました。その他、特に不便に思った事はありませんでした。これからもずっとこのセミナーは続けていって下さい。みなさん本当に楽しかったです。ありがとうございました。

義　則　敏　彦

ＲＹＬＡセミナーに参加することは、年度末の忙しい時期に、山ほど積み上げた仕事をほおっておいて、参加するという側面をもつので、島へわたるまでは大変気の重い状況でした。はっきり言って、セミナーのことよりも、役所へ帰ってからの仕事への対応のことで頭がいっぱいでした。しかし、余島に来て日が立つにつれ、気分はすっかり一変し、まるで一昨年前の学生気分に後もどりしました。これも、このセミナーがもつ、キャンパス的な、レクリェーション的なムードが大きな要因として働いたのでしょう。公務員になって１年がすぎ、各種研修も経験してきましたが、このような開放的な研修は初めてで、上にあげたような環境のおかげで多くの人と知り合い、夜を徹して話し合うような機会にめぐまれました。それぞれの環境の違った、世代の違った人たちの話を聞くことは、町内に閉じこもりがちな私の頭に新鮮な刺激を与え、忘れることのできない貴重な体験を与えてくれました。また、人と人との出会いの不思議さも感じられたこの４日間でした。忘れえぬ４日間を作りだし、調整役としてご尽力くださったロータリクラブの皆様には、深く感謝を申し上げます。今後、このセミナーで得たことを、自分の職場で実践できるよう努力していくつもりです。

❋　❋　❋　❋　❋　❋　❋　❋

谷　村　正　道

えー　こんばんは、Ａ組宴会部長の谷村です。

Ａ組のみなさん、子どもの私相手に仲良く遊んでいただきまして、ありがとうございました。まだ実感として、このセミナーの精神をつかみきっていませんが、今からの生活でこの４日間のおしえが、こういうことだったのかということを思い出せれば、私としては上出来だと思います。「セミナーへ行ってこい」とすすめてくれたじいちゃん、ありがとう。

藤　田　晋　作

大変勉強になりました。日頃仕事に追われ、忘れかけていた「心」をとりもどせたように思います。

これからまた故郷に帰り、仕事に追われる日々をおくるわけですが、「広い心」「あたたかい心」で、家庭や地域社会を見つめていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

❋ ❋ ❋ ❋ ❋ ❋

喉元すぎても熱さ忘れずに

嶋　田　邦　彦

4月3日	就寝	午前3時	7時起床（4日）
4月4日	〃	午前3時	7時起床（5日）
4月5日	〃	午前3時	8時起床（6日）

はるばると兵庫県山陰の地・香住から愛車を駆ってかけつけた小豆島余島。

同じように、高知の土佐から汽車に揺られてきた若者の出会い。

この新しい出会いの結果が、上記のスケジュールとなりました。

来てみれば、受講生の中で最長老。44才の老体にムチ打って、キャビンに入れば乾杯の連続で、やっと6回目の水割をのんで、ついつい「喉元すぎても熱さ忘れず」で毎日。喉元まで北京ダックならぬ余島ダックのアルコール漬け。それでも、最後まで頑張ったのは、19才の南海の暴れん坊に敗れぬ一心のみ。

泣いて、笑って、飲んで、食って、ただひたすら講義のメモを取り続け、それでも体はあたたかき春の陽を浴び、熱き体を砂浜に横たえて、最後の日に涙して、手を取り、髪をなで、肩を組み、そして再び最後のときを迎えたこの一瞬、思えば65名との出合い、A−A′ groupeの16名との出合い……。

深川Deanとの出合いと涙の別れ、今井Past govenorとの厳粛な再会と別れ。

C−C′ groupeのあのやんちゃは、乗りに乗った若者との出合いと別れ、formulaでの議論の相手には感謝の気持ち。

さてまた、いつの日に再会があるのやら……。

すべての人にさようなら、そしてダスビダーニヤ（また会う日まで）。

−・−・−・−・−・−

堀　家　みね子

このＲＹＬＡセミナーに参加してみないかというおさそいを受けて、聞きなれない言葉にとまどいながらも、来てよかったと感じたのが、この余島という青い海と緑にかこまれた島に一歩足を踏み入れた時からでした。

この４日間、諸先生方の溝演を聞いたり、討論をしたり、時には思索の時間、１人になって自分というものを見つめ直したり、夜は夜で各班にわかれて夜遅くまで飲み、語り明かしたりと本当に充実していました。

そのすばらしいプログラムの中でも、私の心の中に一番強く焼きついているのが、２日目の天好にめぐまれずに残念だったけれども、キャンプファイアーが出来たことです。私も地域の方で青年団に入っている関係上、キャンプファイアーをすることが多いけれども、こんなにも素直に心の中が洗い流されるようなキャンプファイヤーを体験したのは初めてでした。そして人間が失いかけていた、そんな素直な心をよみがえらせてくれるような、今井先生のお話し、残り火をみんなで見つめながら、みんなの心は今一つになっているなと感じました。

この研修は、本当は帰ってからの実践に役立てないと、意味のない研修になってしまうのではないかと思います。そしてこの研修で得た友人は本当に大切にし、後々までつきあえるような、そんな関係でありたいと思います。

妹　尾　ひづる

ああ　最高！

今朝は、いつにも増して海が、太陽がまぶしく感じる。松の木もれ陽の下、手作りの切り株椅子にすわって、寄せては返す波の音と鳥のさえずりを聞いている。“オーイ”大きな声に目を上げると、3人が妻恋岬から手を振っている。あれだれかしら？　4日間共に過ごした仲間達のだれか。なぜか心に暖いものが流れ、私も手を大きく振った。昨夜、いえ今朝(?)歌ったいろんな歌が、まだ耳の奥に流れている。

今、こうしていられる私は、もう最高に幸せ！

あの方、そしてあの方、あちらのベンチで腰かけて雑談していらっしゃる先生方のやさしい微笑が目に浮かぶ。

私達の為に、本当に……ありがとう……。

さあ、明日からは例の仕事にかからなくては。家もずいぶん開けたし。そうそう子供、熊本にあずけたんだ。お父さん連れて来てくれるかしら。面到かけてごめんなさい。お礼に、このノートにきっちりつまった希望と夢を全部見せてあげますからね。

あら、もう9時20分。今日は最後まで森先生の講演ね。さぁがんばっちゃお。

S61.4.6　最終日の朝

＊　＊　＊　＊　＊　＊

橋　本　礼　子

3泊4日のライラ研修は、自分にとってとても貴重な体験となりました。

まず、同年代の人たちの経験の豊富さを感じました。それも、私の知らなかった活動だっただけに、自分もあと1年の学生生活を利用して、小学生相手などの活動に、参加してみたいと強く思いました。

それと、バズセッションの時間にいろいろなゲームがあること、年齢さえ忘

れて、みんなが一つのことに熱中できることを知りました。自分も、みんなで楽しめるきっかけを作れたらどんなにいいだろう……と思ったのです。これからたくさんのゲームを少しずつ自分のものにしていきたいと考えています。また時間を重ねるごとに、クラブ活動についても、見方を変えることができました。月の2回の例会一つをとっても、意味のなさを毎回感じていました。どうしたら、このクラブ活動をもっと充実したものにできるか、とても不安でしたが、今回の研修でどう変えていこうかというきっかけを、会長と共につかむことができました。まず、例会時の机の位置から考えてみることになりましたし、もっと他のクラブの例会へ参加して、よい面をできるだけ吸収していきたいと思っています。そして、一つ一つの活動を充実感の持てるものにするきっかけを、会長・副会長と協力し作っていきたいのです。

私は4日間、同じキャビンの人たちから、自分の知らなかった世界、思ってもみなかった考え方と出会うことができました。そこで、自分の消極的な面など、反省することは山ほどありました。いつまでも、先生方のお話しや、みなさんのお話しを忘れません。みなさんと出会えたことを、心からうれしく思っています。

ありがとうございました。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

四　宮　賀　代

4月6日、日曜日晴れ、とてもいいお元気でさわやかな朝です。夕べから起きっぱなしで、見に行った夜明けの海は、少し肌寒いが、すがすがしく、とても愛しい気がします。

そういえば、昨日の思索の時間、浜でウォークマンをつけ、曲を聞きながら大好きな海を見ていて、思わず涙してしまった事を思い出しました。

家を出る時、ささいな事で親と口げんかをし、もうこのセミナーを欠席しようかまで思い、いやいや参加した私にもかかわらず、A班となり、小グループ

に分けられたその時から、私という人間を簡単に受け入れてくれたみんなと、数分後には阿波踊りを指導してみたり、ズケズケと他人に意見してみたり、そういう仲間が出来た事、そしてもう別れようとしている事を思うと悲しく、又、攻撃しすぎたＳ君にも何だか悪い事したかなと反省している私を、穏やかに見つめてくれる海が、今回出会えた仲間のような気がします。私の大好きな海がこの仲間たちなんです。一番の収得だったのが、彼ら仲間だからです。

今日でみんなと別れてしまう、でも３日３晩語り明かした事は、これから海を見るたびに思い出す事でしょう。

このような体験をさせて頂いたロータリークラブに感謝し、後々、後輩が絶える事なく続きますよう、しっかり体験報告させて頂きます。

カウンセラーの嘉納さん、木村さんをはじめ、仲間のみんな、本当に楽しかった４日間をありがとう。今度会う時には、又違った討論ができるよう勉強しておこうと思います。

その時まで、どうかお体に気をつけて、みんな揃って顔が合わせられます事を祈って、ペンを置かせて頂きます。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

新　上　小合百

この余島に渡った時に、私は人みしりするので、一緒に来た友人とグループが別ということは、ものすごく不安であったけれど、不思議なくらいうちとけるのが早くて、今ではより多くの新しい出会いの機会を与えてくださったことに感謝しています。

皆さん、他人に誇れるもの、話せるものを自分のなかに持っていて、私のような狭い世間の中でしか生活していなかった者は、恥かしい気がしました。私はといえば、今の悪い大学生のサンプルみたいで、将来への明確な目的ももたずにボーッと過ごしていたので、とにかく今回は、多くのことを吸収することに専念しようと思いました。今は、吸収するまでには、とてもじゃないけど到

ってはいませんが、自分を形成する上での材料のサンプルは、沢山得られました。今度、同窓会なりで会った時には、ただいるだけの人形ではなくて、人間的に魅力を持ったキラキラ瞳が輝いているようになっていたい。自信を持って人に言えるものを持っていたいと心の底から思いました。自分が子供であることが、ものすごく恥かしく感じました。

普段の生活から離れて自分を見つめる時間が今持てたということは、幸せだと思います。自分を見つめると、ずいぶん恥かしくて、今何も持っていないことに、焦ってどうなるものでもないと思うけど、いらだちのようなものが感じられました。

日頃、先輩方から人生経験等を聞く機会がない、素直に聞ける状況が少ない私にとって、様々な職種、様々な人生を経てきた人の話を一度に得られる時が持てたことは、私の人生、私の形成にとって非常に大きな収穫であったと思います。

小　西　智佳子

現在、日常の行動領域が狭く、従って人々との交際範囲の限られている私にとって、このセミナーに参加した人のレンジの広さには、良い意味での刺激を感じた。異なる地域に住む人、年代のちがう人々との交流、自由な意見の交換ができて、とてもうれしく思う。10人集まれば10通りの考えや人格が、100人集まれば100通りの考えや人格があるということを、改めて体験することができた。そのことによって私自身が、リーダーとして青少年の指導にあたるときにも、ひとりひとりの人格を認め、尊重することができるように、視野の広い、柔軟な姿勢でとりくむ必要があると感じた。

私は、この内容の濃いセミナーを提供して下さった方々に感謝すると同時に、私たちはリーダーとして期待されているという喜びと、ここで得たことを、実践で生かさなくてはいけないという責任を感じた。

B・B′グループ

長　尾　憲　章

まず始めに、このような素晴しいセミナーに参加出来、多くの人と出会えたことを嬉しく感じます。

最初は、青少年指導者養成セミナーと言うことで、少し堅苦しく考えていたのですが、余島に集まったみんなや、ガバナーの話しを聞くうちに気分も楽になり、自分にとって楽しい、そして有意義な4日間だと思います。

我ＢＢ′班は、兵庫県、四国4県から集まった16名と、三木さん、関さんの両カウンセラーと共に、ある日は「学歴社会やいじめ」について話し合い、またある日は「遊びやゲーム」に没頭しました。そんな自分とはまったく違った人との出会いから、いろんなことを学んだ気がします。余島での4日間は、私にとって素晴しいものになったと共に、新たな心の友が得られたことを報告致します。

是非、機会があれば、もう一度参加してみたいと思うのは今の心境です。また、余島やセミナーに関しての不満などはありませんが、ただ砂浜でのソフトボールは、もう少し広い場所でやりたかったのと、バズセッションのテーマが私には勉強不足で、あまり参加できなかったのが残念です。

最後に、ＲＹＬＡセミナー運営委員会の皆様の今後益々のご発展とご多幸を心よりお祈り申しあげます。

そして、ＢＢ′班の皆さん、どうも有難う。

また、いつの日かお会いしましょう。

SEE YOU AGAIN!

…・…・…・…・…・…・…

中　谷　康　彦

まったくの単独で、それも、ライラセミナーというものや、ロータリーの事など全々知らない私は、港を出た時、不安でいっぱいでした。少しずつ他の人ととけ合い、話しができたときはホッとしました。同年代の集まりのキャンプ

は何度も経験していますが、今回は別です。20代から70代まで幅広い年齢層で、多種多様の職業の人が集まって来ました。これは初めての経験です。セミナーを受ける私たちの為に動いているスタッフは、70代のおじいさんです。スケジュールをこなしていく過程で、その影で動いてくださったのが、私のおじいさんの年代であるというのはショックでした。夜のキャンピンでは、それぞれの経験や知識を話し合い、ねるひ間なく論議できました。余島という環境にめぐまれた場所でのセミナーは、本当に有意義なものでした。いつもは聞き耳を立てない講義も、楽しく聞く事ができたのも、その為だと思います。

本当に感謝しています。

…・…・…・…・…・…・…

鷲　尾　弘　典

深夜の話は、たいへん自分にとってつらいものでした。あまり物事を深刻に考えた事のない自分にとっては、恥しいばかりでした。何も何も理解する事が出来ないのです。真面目にしなさい、腹立たしかった。

余島はとてもきれいで、本当に夏ならいいのにとか、講演がなくって、夏に長期に渡って生活してみたい、そんな風に思いました。

フォーラムの時は、各々の人が妥協をせずに、熱っぽく話が進められて、しかも、進行をなさっていた先生の話のもっていき方がすっごいと、また、ただ驚くのでした。ぼくが地区にもどると子供達がまってるし、いたらないものですが、あらためてよろしくお願いします。もう一回復活して、今日のこと考え、とりあえず整理、整理、でも、とりあえずねむいです。

4/3〜4/6　余島にて

立　花　康　弘

監督、先生、ペンギン、10万円。初めて会った人達が、一夜過ぎれば、あだ名がつくような仲間になっている。こんなすばらしい出会いの場を作っていただいたＲＹＬＡに、多謝！　多謝！

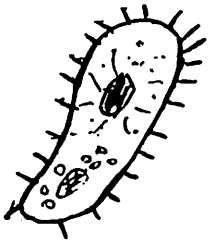
…・…・…・…・…・…

井　藤　章　弘

とにかく有意義でした。青少年リーダーの活動や、存在意義など考えたことのあろうはずもないこのわたくしめが、このような、豪華な催し物に列席させていただき、全くもって感謝々々の４日間でありんす。多くの友人に会わせて頂き、新しい視野を開眼させてもらっのでございませんか。何と幸せな事ではありませんか。そしてやっぱり、とどめは「ヒゲ」の男性ではないでしょうか？ここちよく疲れました。ごくろうさま。ごちそうさま！

（かぶと虫のつの）

（みじんこ）



（ぞうりむし）

…・…・…・…・…・…

横　山　政　己

出会いは、いろいろなパターンがあります。パターンにより素晴しい出会い、しらけた出会いになってしまいます。この４日間とても楽しい日でした。出会いは、数々のおもしろさをあたえ、また、自分を見つめなおす機会をあたえて

くれます。そして、何よりも楽しいことは、自分たちの力で作りだすことをおしえてくれました。

4日間思ったこと。

⊙ ねむる時間がもったいなかった、ほとんどねてないのだ。講演時間つらかったよ。

⊙ あらためてアルコールに弱いことを発見!! みなさん、体を大切に。

⊙ ほかのキャビンの人たちと、もっと交流がしたかった。

⊙ 学生が多い、それも20才台、彼らの力はすごい、23才の私だがついていくのに大変だ……。

⊙ インスタントラーメン生活の私にとっては、すばらしい食事の数々だった。

⊙ 私のキャビンはおもしろい人たちばかり、個性の強い人、ぼくは好きだよ〜。

ハレー水星みましょうの会のみなさん、ごくろうさまでした。ハレー見れなくて残念でした。しかし、流れ星とってもすばらしい、みささんいくつ発見しましたか。(星に愛を!)

⊙ テニス、サーブの練習もっとガンバラなくてはいけないな……。

⊙ カウンセラーの三木さん、早くベンツかBMW見せてください!

⊙ 阿波踊り、楽しみにしてます。

⊙ 「神よ、まつぼっくりに力を与えてくれ!」

⊙ 20才〜22才の友だちへ、講演時間ごくろうさまでした。私も久し振りにスリルをあじわえました。

⊙ ウルトラ・スーパークイズ、3時間は楽しめました。頭がリフレッシュしましたよ。

⊙ シシ肉食べよう会へ参加しよう。来年の5月マッタケがおいしいよ。

⊙ めざせ教師への道、ファイト一発!

⊙ おかあさんへ、こどもはたからだよ〜。

⊙ カントクさん、私たちのチームの名前なんだっけ?(船に乗れましたか?)

⊙ せんせい、一歩一歩かくじつに進もう。

⊙ 心はロータリー、気分は最高、スーパーギターマンやったね。

◉ 青春・出会い・ふれあい

まだまだ青春してまっせ〜〜〜。

De YOSHIMA IN MASAMI YOKOYAMA

＊＊＊＊＊＊

須賀　誠

何のために集められたのかも解らず、「交通費・会費はロータリーが出します」という言葉に、「こりやぁ　行かんかったら損するにやぁ」との、何ともそらあさましい考えで、高松行き急行列車に飛び乗った私でしたが、瀬戸内海余島の素晴しい自然の中で、昨日までは全く知らなかった人々と、夜の更けるまで酒を酌み交わし、互いの親交を深める事ができたこの4日間は、久しぶりに学生時代に帰ったようであり、良き充電の時となりました。このような機会を与えて下さったロータリーの皆様に、心から感謝致します。

各々の分野において活躍されている先生方の素晴しい講演、特に「転換期の地域社会」と題した高崎昇三先生の講演は、ユーモアを交えながらの実践に即したお話であり、大変興味深く聞かせて頂きました。破産寸前の地方財政においての公共福祉のあり方について、ひとつの指針が与えられた様に思いました。

又、今回のバズセッションのテーマ「地域社会の問題点」、特に子供達の問題について考える時、学校教育（知識詰め込み教育）が、如何に子供達を縛り、その成長を偏ったものとしているかを感じました。これは私たち大人社会が合理性を追求するあまり、人間の価値までもを数字（順位付可能なもの）で表わそうとしているため、数字として最も表わしやすい学校成績を人間の価値として用いることに、その原因があると思います。子供一人一人が生きていることに、人間としての価値を見いだすことが大切であると考えます。私達は2日目の夜に、感動的なキャンプ・ファイヤーを共にすることができました。真っ暗闇の中で、燃える炎を静かに見つめ、今井先生のお話を聞きながら、私のどろ

どろした心の中が洗われ、新しい希望が与えられた様な気がしていました。翌日の思索の時間に、もう一度ファイヤー場を訪ねてみますと、昨夜は闇に隠れてみることができませんでしたが、そこに白い十字架が建てられていました。今井先生をはじめ余島ＹＭＣＡの人たちが、この場所を、「キリスト・イエスの十字架の死によって私達の罪（自己中心な心）が許され、復活によって私達に新たなる力を与えられたこと（神の愛）」を思い起こす場所としてとらえておられることを知り、深い感動を受けました。私は、「人は創造主たる神によって愛されている」ここから出発する人間の価値感を社会の中に知らせていくことが、子供達の問題点のみならず、社会全体の問題を解決していく道であると信じます。

余島は、～人と出会い、神と交わり、愛の炎の燃えるところ～

＊＊＊＊＊＊＊＊

北岡　弘

“場違いなセミナーへ自分は足を運んでいるのでは？”と、小豆島への船で思い、“大変なセミナーへ参加したものだ”と、余島への船で思っていた自分を、今、おかしく感じています。

どちらを見てもヤングにギャル。時々、人の良さそうな年配？の姿が見える余島の会場。しかし、私に与えられたモノ、私が経験できたモノに、今満足しています。

ロータリークラブについての知識が全くなかった私には、貴重な３泊でした。以下、私の感想を述べてみます。

講演会については、特にありません。何故なら本セミナー独特のプログラムではなく、各種研修会等で必らず取り入れられておりますから……。私はバズセッションやキャビンタイムで、若者とひざ突き合せて話し合えた時間を嬉しく思いました。むつかしい話題も、おもしろい話もありました。

何よりも、飲んで唄って、踊って笑って、時を過ごす中で若者の情熱を知り、

明るさを知りました。ヘンなクイズで3時間ほどイジメられて、本当に貴重な体験もさせてもらいました。そして心から共に楽しむ事が出来たキャビンでの生活が印象的であります。

バスでの、海を眺めながらの話し合いも、素晴しいひと時でした。それを受けてのフォーラム。人の考え方、見方、そして受け止め方は千差万別であるという基本的な事を再確認した思いです。青少年活動に携わる一指導者として、非常に大切な事を学んだと思います。ファイヤーを囲んでのひと時、私が数多く経験したそれに比べて楽しく、しかも重味のあるものでした。参加前に送って頂いた資料にあります。ロータリーの〝四つのテスト〟を噛みしめる大切な時間でありました。

今井先生のお話しを忘れないように、今後の青少年活動に取り組みたく、心新に致しました。

3泊を共にした仲間と、星空を長時間見上げました。美しい空でした。見た星は同じでも、感じた事は別々だと思います。いつか、その別々なものを持ち寄って、ひとつにすると何か大きな仕事ができそうです。

深川先生をはじめ、運営委員会の先生方に感謝致しますと共に、本セミナーがますます発展されますようお祈り致します。

最後になりましたが、最終日の早朝、私1人のために船を出して下さいました近江岸所長さん大変お世話になりました。

皆さん、有難とうございました。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

檜　垣　雄　介

ライラセミナーは、はじめかたくて僕にはついていけないのではないかと思っていたが、年もあまり差のない人が多くて、気楽に参加できた。

キャビンタイム、天候に恵まれなかったレクリェーションは、みんなと楽しくすごしたり、キャンプファイヤーでは、願い事の大代表という大役を任せら

れ緊張したり、まだバズセッション・フォーラムでは、みんなで真剣に取り組んでいったりした。（バズのテーマが僕にとっては、少し大きかったと思った）

ライラセミナーを終えて、この3泊4日は僕にとって、全て忘れることのできない、楽しくかつ、有意義な日々であった。

福　井　弥　生

1年前から、ライラセミナーに参加するのを夢見て来た。

私は青年団活動をやっています。今回、青年団活動に〝生かせる事があれば〟と参加させて頂きました。

私達が地域社会において、リーダーとしてどうあるべきかという事、これから期待されている若者だという事が学べた。この事により、進んで活動に参加できる体制がとれた。

集まった友は、年齢がさまざまだったので、人それぞれの考え方があり、いろんな意見が聞け、なお、自分の意見が言えた事が、とてもうれしかったです。余島の桜の花が、4日間のあいだに開いていったように、私の心も開いた感じです。

このライラで、すばらしい友ができました。一番忘れられないのが、みんなで見た星空です。あの時ぐらい美しく見えた星はないと思います。星を見るたび思い出すのでは……！　このような活動を通して知り会った友は最大の友です。いつまでも大切にしたいです。

21世紀に向けて、みんなでGo！

南　郷　裕美子

私は、本当のこと言って、しぶしぶここにやって来ました。理由は、まず第1に、誰1人として知人がなく、心細かったこと。第2に、新学期前の忙がしい時期には、4日間という日数が、ものすごく貴重に思えたこと。第3に、船は1人で乗ったことがないという事実。第4に、4／4には毎年かかさずいっている、あるミュージシャンのコンサート…（チケットも、すでに購入してたのでアル）。

ま。第3・第4理由は、そっと胸に秘め、一応、第1・第2理由で、一度はお断わりしたのですが、「そう言わずに、ぜひいらっしゃい、食事もおいしいし…」。「あっ、じゃぁ、行かせて頂きます」。こうして単純な私は、重たい荷物をさげ、やって来たのでした。

集合場所の銀波えんには1時間前につき、そして、なんともう一度船に乗せられた時は、「どこへ行くんだろう…　どうなるだろう…」という不安で胸がいっぱい……（実は、船に乗る前、うどんをいそいで食べたので、胸につかえていたのである）。

あっという間に4日目となり、睡眠不足で、多少頭痛がはしるが、それは帰って眠ればすむ問題！

素敵な海、澄んだ空、そしていろんな設備のある環境の中で、自由、自主的に活動できるようプログラムが組まれており、私が今まで仕事上いろんな研修に参加したものとは、比べものにならないくらい楽しいものでした。

それは、何よりも、生活環境も社会環境も全く違う人たちが、同じ時間をすごすうちに、本当にバカになりきって、遊び、学び……。

同じグループの人たちやカウンセラーさん、そして、ロータリアンの方々と4日間をすごしてみて、人のあたたかさを再認識し、難かしい事は書けませんが、人間っていいな〜てつくづく感じました。

晴ればれした心で、今日は私離島します。

ありがとうございました。また逢う日まで。

三　浦　由記子

このセミナーに参加して、いろいろな職業の人、年齢の人と出会えて、話を聞けて良かったと思います。

セミナーの最後の夜は、キャビンの人たちで星を見て、多くの人がいろいろな職業の人が、いろいろな年齢の人が同じことを考えて一つの空を見ている瞬間は、感激でいっぱいでした。

このセミナーで得られるものはとても大きく、2回しか参加できないこと、一定の人しか参加できないことをとても残念に思います。できれば何回でも参加したいと思うぐらいです。

持って帰るものがたくさんできました。

考えさせられることがたくさんありました。

キャビン内での同窓会も計画しています。

本当に、このセミナーに参加できたことをうれしく思います。

ありがとうございました。

そして、どうもごくろうさまでした。

大　北　貴　子

あれ〜〜〜　と思っている間に4日間が過ぎ……、セミナーが終って、何だったんだろうと考れさせられ……。

私には、自分自身をみつめなおすきっかけを、与えてくれたように思います。このままでは、いけないのではという不安、もっと勉強しなくてはというファイト。頑張ってみます。

最後になりましたが、お世話くださったロータリアンの皆さま方、ありがとうございました。

吉　良　佳　子

あっという間の４日間でしたが、初めてＲＹＬＡセミナーに参加させていただき、そして、先生方のお話を聞き、改めて、私はいろんな祝福の中で生きているんだな……って思いました。

そして、人のお役に立ったり、青少年を指導したり、具体的な事はできないかもしれませんが、私の回りにいる人や、すべてのものに対して、愛を持って接することができたらな、と素直にそう思いました。

お世話下さったカウンセラー、ロータリアンの方々、本当にありがとうございました。

C・C′グループ

立　岩　英　樹

私は、姫路ＹＭＣＡのボランティアリーダをやっています。

大学生活をリーダーにかけようと思い、３年間やって来ましたが、この３年間に色々な人と出会い、色々な社会の側面等を勉強させていただきました。

私のやっている活動は、親・リーダー・ＹＭＣＡの三者で、子供たちによりよい環境を与えようとすることをきっかけに、地域の活性化することをねらっています。

このような活動をやっていることもあり、これからの地域について、大いに興味をもっています。

このＲＹＬＡでは、色々な仕事や立場のちがう人々が集っていて、こと子供に対することだけにとどまらず、地域またその住民について話し合うことができたことは、本当に有意義でした。

その話し合いを通して、自分自身の考え方をしっかりと認めることができました。それは、だれもが満足できるように、だれもが本当にぶつかりあえる場、地域が必要だということです。

さて、そこで自分が何ができるだろう。もう一度、ＹＭＣＡのリーダーたちと青少年リーダーについて話をし、子供たちや親たちとつながりをもっていきたいし、地域社会に主体的に参加したいと思います。

ところで、私たちのグループは、他班のみなさんやロータリーの方々に、色々と御迷惑をおかけしましたが、私は、この班で本当にすばらしい体験、すばらしい人たちと知り会うことができたことは、一生の思い出となるでしょう。また、いつもはリーダーとしてキャンプ等に参加してきましたが、このRYLAでは、ひとりのキャンパーとして、グループづくりに参加できたことは、今までの自分のリーダーシップを反省し、新しいものにつなげるのに、非常に意味深いと思います。

みじかかったが、本当に素晴しかった４日間は、おわろうとしていますが、これからが勝負だという気持ちをいつまでも忘れずにいたいと思います。私自身が新しい世界をひらくｋｅｙであることを祈り、筆を置きます。

ありがとうございます。

森　崎　真　介

僕はなぜ今回のセミナーに参加したか？　恥かしながら、「酒が思いっきり飲めて、可愛い女の子がいっぱい居て、思いっきり楽しかった」という事を、前回の参加者から聞いたからです。しかし、それとは又別に、必らず自分にとってプラスになる事がある。と信じていました。そしてその考えは、見事に裏切られ……なかったのです。

この3泊4日の間に仲良くなった酒と友人、又、余島の自然にバンザーイ。

最後に、顧問、ガバナー・ディーン、各ロータリアン、所長、教授の方々、カウンセラーの方々、本当にありがとうございました。

僕からのお願いです。このライラセミナーの灯を絶やさない事を、僕は、このわずかな期間で、少しですけど、物の見方が変わったような気がします。

井　本　学　明

4月2日に集合場所の銀波園へ到着し、意識して余島を見たのは、何度か小豆島へ来たことがあるのに、初めてであった。兵庫県の赤穂から1人で参加したので、不安と期待で上陸した。

私の属する班はC班、男女16名であった。だが、リーダーとして活躍しているメンバーが中心であるので、夕食までには以前からの知人のようになっている。リーダーとは、いかにあるべきかという研修会では、ほとんど机の上において、講師の話を聞いて終わるというのが、今までの経験でした。それが、今回のセミナーでは、自主的に自己紹介を始めてからニックネームが決められ、4日間の呼び名と、グループ内での役割りもすぐ決定した。私のネームは「お

とうさん」。グループでの役割りは、カウンセラーとメンバーとのパイプ役で、調整作業が主であった。このグループ16名の3泊4日の団体行動が、今回のＲＹＬＡセミナーに参加しての全ての成果といっても過言ではないように思います。グループリーダーのあり方の実践方法を学んだよい機会でした。ありがとうございました。

ところで、私の活動からロータリーの皆さまにお願いしたいことがあります。ボランティア活動をやっているメンバーは、各地にたくさんいます。そのボランティアたちが活動しやすい場所づくり、活動するための資金援助などをお願い致します。また、このようなセミナー参加を、１人でも多くの若者（青少年リーダー）たちに経験させていただきたい。

ロータリアンのスタッフの皆さん、参加者の皆さん、４日間どうもありがとうございました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

福　田　昌　志

今回、このセミナーに参加できた事、大変すばらしい事でした。一生のうちで、本当にいい思い出にできたと思います。

今年から保育所になりますが、今回のセミナーで学んだ事を役立てて、子供達に夢を与えて行き、今よりもっともっと、一回りも二回りも大きな保父になって頑張ります。短い日々でしたけど、得た事は本当、言葉ではいいあらわせないほどです。本当、カウンセラーの先生ありがとうございます。

又、お会いできる事を楽しみに、又がんばります。

✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿

岡　村　佳　樹

この４日間、ＲＹＬＡセミナーを受講しました。

初め、神戸に集まった時には、皆無言で「これは大変な所に来てしまったな

ぁ……」と思いましたが、1日、2日、3日とたつうちに、皆うちとけて、夜になると異様な盛り上がりを見せた程です。

とにかく、皆が皆いい人ばかりで、話しをし、闘論をする中で、「ボクなんか、まだまだあかんなぁ」と痛感させられました。これから尼崎に帰りますが、皆に「あいつ、ＲＹＬＡに行ってから変ったなぁ」と言われるように、ここで得た経験を生かしたいと思います。このことが、ＲＹＬＡでお世話になった人たちへの、僕に出来る唯一の恩返しです。

4日間、本当にありがとうございました。

✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿

片　井　将　晴

ＲＹＬＡに参加し、得ることがたくさんあり、とても良かったと思います。地域社会に密着した生のリーダーたちの声を聞き、とても勉強になりました。今回は第8回のＲＹＬＡセミナーですが、いったい、これまでのＲＹＬＡセミナーはどんなものだったのか知ってみたくなりました。こういう気持ちになるということは、今回のセミナーが私自身にとって、とても良いものであったのでしょう。スケジュールなども別に問題なく、内容についてもとても充実していたのではないでしょうか。ただセミナーの目的とするところは、浜川ガバナーが「ＲＹＬＡセミナーに寄せる」、金子ガバナーが「ＲＹＬＡ参加のみなさまえ」の中に書いてありましたが、セミナーの「スローガン」というか、「メインテーマ」のようなものがあってもいいのではないかと思いました。

ただ単に、第8回ＲＹＬＡセミナーだけではなく、第8回ＲＹＬＡセミナー「○○○……」というようなテーマがあってもいいのではないかと思います。ＲＹＬＡもこれから回数を重ねていくと思いますが、将来どんなテーマでやっていくか、又、どのような方向に進んでいったらいいのかという一つの目安になるのではないでしょうか。といいますのも、これまでのＲＹＬＡは、どんなものだったかと知りたくなった時、「メインテーマ」というか、「スローガン」

みたいなものがあると。おお第１回のＲＹＬＡセミナーメインテーマは「○○○○○」だったのだなぁと、第２回は「○○○……」というように、今までのＲＹＬＡはどんなものだったのかということが、わかるのではないでしょうか。そして、その「メインテーマ」の決め方も、例えば第８回のＲＹＬＡのメンバーが、次のリーダーに望むこととか、やってほしいこと、考えてほしいことを一つのテーマにして、次のＲＹＬＡにバトンタッチする。そして、こんどは第９回のメンバーが第10回のメンバーに、第10回のメンバーが第11回に、第11回が……と、人から人へ、リーダーからリーダーへ、バトンタッチしていくと、目に見えないネットワーク作り、パイプライン作りができ、ＲＹＬＡに参加したメンバーが未来永劫、一つにつながっていくのではないかと、私なりに思います。

「メインテーマ」作り、「スローガン」作りということを、これからのＲＹＬＡで考えてみるのも良いのではないでしょうか。

４日間、本当にありがとうございました。

＝•＝•＝•＝•＝•＝•＝

田嶋栄文（たあざん）

終って今、ほんとうに来て良かったと思います。来る前日に参加が決まり、最初はあまり乗り気じゃなかったけど、とても有意義な４日間でした。

これも、ＲＹＬＡセミナーのスタッフや、神戸ＹＭＣＡ余島野外活動センター、参加者みんなの協力のおかげだと思います。中でも特にＣ・Ｃ′班のとんでもないくらい、恐ろしいまでの〝乗り〟のよさと、チームワークには感謝、感激です。

初日の夕食（オープニング・パーティー）からさっそく盛り上がり、ゲーム大会の夜も、披露することはなかったスタンツ決めも、アニメのなつメロ大会の夜も、バズセッションも、フォーラムも、最後の夜も、みんなみんな自主性、協調性、助け合いと、三揃子揃って、バツグンのチームワークでした。５時間、

3時間、4時間という少ない睡眠時間の中で、この上ない友愛の輪が固まったと信じてます。

その他、印象に残っていることと言えば、あきれるくらいよく〝喰った〟ということ、キャンプファイヤーの近江岸所長のエール、フォーラムの恐しいくらいの真剣さ（後半ちとだれましたが）、それと、オリエンテーション、3日間の講演、バズセッション報告、フォーラムと、あの大部屋に入ったら必らず寝てしまったという、あまり大きな声では言えませんが、自慢です。ハ、ハ、ハ……

このセミナーのスケジュールに対して思った事を2、3書きます。
プログラムとプログラムの間にゆとりがあって、時間的にも精神的にも束縛されることなく、のんびりできたのが、よかったと思います。

講演の時間が長すぎて、おまけに3日とも、というのはしんどいじゃないかナ……。これはフォーラムにも言えます。大学の講義でも1時間半なので、人間の集中力や、持続時間を考えてもらいたいです。今井先生のファイヤーの時の話も、いい話だったけど、天候を考えてほしかったです。他の班の人と交流することが出来なかったのも残念です。（これは自分達の問題ですが）。

たんちゃん、おとうさん、サロンパ、リキ太、いのヤン、デルちゃん、うめさん、わらび、えんにち、アシダ、ファーさん、たえドン、ツタンカーメン、ゴンちゃん、しもヤン、おかあさん、トンさん、武貞先生、ヤッさん、また〝月光仮面〟やりましょう。

いろんな人と出会えて、いろんな人を知って、いろんな人生を学べて、かけがえのない友達ができる。ＲＹＬＡセミナーが、永遠に続くことを祈って終りたいと思います。

＝•＝•＝•＝•＝•＝•＝•＝

井　下　強　志

ＲＹＬＡセミナースタッフの皆様、本当にお世話になりました。

有意義かつ大変楽しく、4日間を過ごすことが出来ました。4日間の経験と勉強の成果を、地域に帰り、十分発揮することをお誓いして、お礼の言葉とし

ます。有難度うございました。

★ ★ ★ ★ ★ ★

下　村　拓　磨

4月3日ポートタワー前に集合した時、みんな敬遠しあっていましたが、船の中やバスの中で、徐々に話すようになりました。初日のプログラムは、オリエンテーションとオープニングパーティー、キャビンタイムだけでした。この時間は、大変意義があったと思います。初めて会った人達と、いろんな地域のいろんな職種の人達といろんな事について話し合いました。最初に話やソング、ゲームをしたおかげで、急速に班がまとまっていったみたいです。班で何かをする時、自然にパトロールリーダー的役割の人が出てきて動いていました。サブ的役割の人も、スッと出てサポートしていました。パトロールリーダー的な人も単数ではなく、流れにそって、その場その時でリードする人が自然に交代していたようでした。今まで参加した他の研修では味わえない雰囲気を味わうことができました。このライラでは、多くのものを学ぶことが出来ました。それは、講義よりも、キャビン内で動いていたときの方が多かったように思います。このセミナーに参加できて、大変よかったと思います。ライラセミナーを開いて下さったロータリアンの方々、色々お世話になり、ありがとうございました。セミナーで得た知識を、地域に帰って広げたいと思います。

£££££££££££££££

広　井　佐　代

年度始めで忙しい職場に休暇届を出し、上司の方々に気を使いながらも参加した4日間のセミナーを振り返って一言、「来て良かった」。多くの友達に出逢えたこと、そしてその友達のいろいろな意見を聞けたことは、職場では得ることのできない大切な経験となりました。

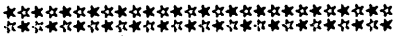
このセミナーにおいて、C班の1メンバーとなれたことを、班編成してくださった方々に、心から感謝しております。

こんな友だちは初めてです。私の人生において、画期的な出来事です。「♫ドンジャラホイ」に「月光仮面」「グー・チョキ・パー」に「もしもしカメヨ」それに手話。教えてもらったことは、数限りありません。当然ゲームばかりではなく、YMCAやボーイ・ガールスカウト、その他ボランティア活動についての自分の考え方や理想、回りから見れば、ジョークが過ぎると思われた方も多いと思いますが、私はこのメンバーから、今まで知らなかった世界のことをたくさん教えてもらうことが出来ました。今のこの気持ちが冷めない内に早く持って帰り、地元の仲間と共に、活動を始めたいです。

この4日間のセミナーを通して痛感した事は、「もう一度自分の人生をよく見直してみよう、そして年老いた時、自分の人生が納得いくものであってほしい」ということです。

最後にC班のみなさんに贈ります。

「知り合えた貴方に、この歌を届けよう、今後よろしくお願いします。名刺がわりに、この唄を」



出会いの喜び

西村明子

夜、ふと目がさめると、今一体、自分はどこにいるのか？

聞こえてくるのは波の音だけ、まるで別世界にいる自分に気が付きました。この3日間、私にとって全くの未知の世界を旅している感じでした。余島のすばらしい自然に囲まれ、自分をみつめる時間を持ち、いろんな人たちと出会いました。違った環境で育った人々が集まり、脳み、喜び、悲しみを打ち明け、助け合う。人間って1人じゃないんだ、心配してくれる仲間がいる。それを忘れてはいけないなと、つくづく感じさせられた3日間でした。

今、自分が日々過ごしている社会が、いかに閉鎖的であったか、それさえも気づかなかった。気づこうともしなかったことを思うと、びっくりしている。

ここで得たことが、どこまで生かせるか、これからの私の大きなテーマだと思います。

すばらしい仲間がたくさんできました。いろんな考え方があることも知りました。愛の大切さを教えられました。このすばらしいチャンスを与えて下さった方々、共に語り合った人々、本当にありがとうございました。この感謝の気持ちを忘れずに、自分の世界へ持って帰ろうと思います。

私なりに何か役に立てるよう、頑張りたいと思います。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

大森信子（でる）

3日前、私はどきどきしながら、神戸のポートタワー下へ行きました。するとそれらしき人達がポツポツと、1人で海を眺めて、とても異様な雰囲気がただよっており、それが何故か新鮮で、「みんな1人1人違う人間が、この海の向うで4日間一緒に暮らすんだ！」と、足もとから勇気がわいて気ました。

こんなオープニングをもって、私のＲＹＬＡセミナーが始まりました。

この4日間で、一番良かったなと思うことは、いろんな人の内にこもる、いろんな事に対する熱意を、じかに感じさせてもらったこと、同時に反省させられたことも多かったことです。

私は、小学校4年生の頃からガール・スカウトで活動し、いろんな事をリーダーから学び、当然のごとく私も現在リーダーをしています。たしかにスカウト上りで、多分、人より多くのいろんな経験をし、体にしみついているとも感じますが、リーダーとして、少女たちの周りの環境、その問題など、大きな視野で考えてみたことがあっただろうかと思いました。ただその場を、この単元を少女達と共にすごし、学んだらそれきりだとしていたんじゃないかと、深く考えさせられました。

今井先生が、ファイヤーのおわりに私たちに言って下さったこと。人として生きる姿、一生懸命燃えるまきの姿、目にやきつきました。ほんとにＲＹＬＡに参加してよかったと思いました。

この４日間で、大学１年間ぐらいの脳味噌のしわができたようです。Ｃ班家族で、おとうさん、おかあさん、おにいさん、おねえさんも出来。こんなにいっぱいのお土産でカバンがパンパンですが、一つも残さず神戸に持ち帰りたいです。

ロータリアンのみなさま、こんな貴重な贈物をありがとうございました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

我等ラインダンスのように

岡　田　多恵子

何週間か前、ラッキーにも、このライラセミナーへ参加出来ることが決った。喜びと同時に、ガールスカウトにも、○○アクトにも関係を持ったことがなく、現在も子供たちや地域社会と密接なつながりを持っているとはいいがたい。そんな私が、果して「青少年リーダーの育成」を目的とする集いに入っていいものだろうか、と不安があった。ところが幸運とは続くもので、リーダーの精鋭ばかりが集ったような、Ｃ・Ｃ′班の一員となることが出来た。どのように仲よくなるかなどということは考えるまでもなく、自然と手拍子、足拍子、いつのまにか肩くんで歌っているという状態。いったい、これが数日前まで、見も知らぬ若者たちであろうか。

様々な地域、様々な生業を持つ個々が集まったのだから、意見の違いやぶつかりもあろうが、それを自然とまとめていけたのは、ひとりひとりの人間性に輝きがあったからである。このライラセミナーを終えるところには、さらに磨きがかかっていることと思う。

私は日頃「劇団をつくって、ひと旗上げるゾ」と考えている人間である。そ

れはもちろん、自分以外の何かになる楽しさもあるが、一人ひとりばらばらだった人間が一つの事にあたり、一人では出来なかった事、だんだん大きなものを作る事が出来る。魔力にとりつかれたからなのだ。この集いにも同じことが言えると思う。我々の行動に、ひややかな視線を送る人もいたが、若者は、常にバカ者でなければならないものだから、見ていないで一緒に、良いバカ者を目指そう！

私が、最初不安に感じたように、これからも既製の団体で、地域社会とかかわっていくことはないかもしれないが、演劇やその他日常生活の中で、十分生かしていくことは出来る。

数時間後、豊かでかそけき音の自然の中で、リフレッシュした身心をもって、喧騒の都会へ帰るが、たとえ雑音の中でも、潮騒や皆の笑い声を思い出すだろう。

このような、幸福な数日間を与えて下さった皆様方に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

1986.4.6

安　西　美　保

私は今まで、いくつかの合宿等に参加しましたが、今回のような主旨、形態、参加者のものは初めてで、最初は不安がありました。しかし今、振り返ってみると、とても新鮮で、勉強させられるものであったと、強く感じています。

このセミナーは、共同生活でありながら、ある程度の自由が許され、自分の時間（思索の時間）も確保できるというのは、最初戸惑いました。私の生活は〝分〟きざみで分けられ、内容も強制されていたなぁと思いました。そして、この生活に戸惑ったということは、自分がかなり管理され、画一化され、主体性がなくなってきているのではないかと思い〝はっ〟としました。

またいろいろな地域で、様々な年齢、職種、組織のリーダーの方々の生活体験や社会批判、理想などを聞いていると、自分の未熟さを痛感し、反省させら

れました。そして"燃えているなぁー／"と感じ、私も"何かやりたい!!"という思いがおこっています。この気持ちを忘れずに、今後の生活の中に生かしていきたいと思います。（特にカウンセラーの東先生、橋本先生の国際色豊かなお話は、大変興味深いものでした）。

そして、何よりも言いたい事は、班が最高であったと言う事です／　とてもまとまりがあって……　酔っても、素面でも騒げるという特技があり、ちょっとハメをはずし、という反面、とても深くて鋭どい考えを持っている……　いろいろな面のある方であったと思います。（しばらくの間、"月光仮面"で日常生活に支障をきたしそうな気配が×××）。

私が、素晴しい4日間を過ごすことが出来たのも、C班の方々のお蔭げです。本当に有難うございました。

◇　◇　◇　◇　◇　◇

市　橋　初　美
（もりのこかげのわらび）

4日間、ほんとうにあっという間でした。

ＲＹＬＡセミナーに参加して、今まで全ったく知らなかった人達と出会い、共に生活する中で語らい、楽しみながら、4日前には本当に知らない者同志だったのかなと思えてしまうほど、仲良くなりました。男女も年齢も関係なく、本当にすばらしい、凝集性のとても高い仲間となりました。

いろんな人が、いろんな場所でいろんな形で、それぞれの思いを持って、頑張っているんだなと言う事を知って、とてもうれしくなりました。

私は、兵庫県の三木市子ども会リーダーズクラブ（M.C.L.C）で、地域の子ども会活動のお手伝いをさせてもらっていますが、今回のセミナーを通じて、リーダーシップという事を改めて見直すことが出来ました。ＲＹＬＡで学んだことを活力として、またＲＹＬＡで知り合えた仲間を大切にして、これからも頑張るぞ／という、わくわくとした気持ちで一杯です。

本当に素晴しい4日間でした。

ロータリアンのみなさん、スタッフのみなさん、素晴しい4日間を有難とうございました。それから東先生（とうさん）、橋本先生（おかあさん）、素敵なそして楽しいお話とご指導ありがとうございました。それからそれから、C班のみんな── アシダマン、たあざん、えんにち、たえどん、ごんちゃん、たんちゃん、下やん、井のやん、つたんかーめん、ばんどううめさん、サロンパ、でるちゃん、リキ丸、おとうさん、ファーさん── ありがとう。"C班魂"でこれからも頑張りましょうね。AとBとD班のみなさんとの直接のふれ合いは少なかったけれど、4日間、同じ時を共有できた事をとてもうれしく感じています。"We are the key！"を胸に頑張りましょう。

※※※※※※※※※※※※※※※

黒　田　裕　子

この3日間、いろんな友達と出会った事は、とても素晴しかったと思います。夜遅くまで、いろん事を討議し合ったりし、あるいは歌、ゲームで楽しんだりして、自分にとってプラスになりました。

あっという間の3日間でしたが、自分を見直す事ができ、勉強になりました。

ロータリアンの皆様、どうも有難うございました。セミナーのテキストに参加者全員の名前を記載してほしかったと思います。

D・D′グループ

新　川　芳　浩

楽しく短かった、3泊4日のライラでした。

レクリェーションを選択するのに、もっと広くできる場所などがあれば、よかったと思います。

講演の時間はねむたかったけど、転換期の地域社会の高寄先生の時間のように、ユーモラスの話しが良かったです。

ここで学んだことを、ぼくは自分の所属しているボーイスカウトの方で、生かしていけたらいいと思いながら、頑張っていくつもりです。

貴伝名　光　昭

今より若い自分はない。今日から感謝の心で生活しましょう。

万物の平和、幸福を願う神の心を心とし、他人のために働きましょう。

ありがたい、ありがたいと思う心に、不安はありません。

と、生まれた頃より育ててくれた親の言葉を、この4日間の人との出会いの中で確信し、今より精進することを、お約束します。

これが私の感想であり、決意ありま。

ライラセミナーが、ロータリーの活動が、万物の幸福につながります事を、お祈りをいたします。

ありがとうございました。

江藤先生のような優しい目の人になりたいです。

酒　井　彰　穂

今回、ＲＹＬＡセミナーに参加させていただき、人とのコミュニケーションが、一番大切なことだと思いました。

この余島にきて、様々な人と出会い、お互いにいろいろな体験・意見を聞い

たり、話しをしたりする事によって、今まで自分が考えたり、したことがなかったことや、また改めて、深く考えさせられるようなことも、沢山話し合いの中から生まれました。この様な事は、まず1人でも多くの人と出会うことから、初めて起こるものであり、出会いなしでは、考えられない事だと思います。だから僕は「出会い」を大切にしたいのです。

そして出会いのあと、コミュニケーションが生まれ、それが栄養となり、より豊かな人間を作りあげていくのだと思います。そうして栄養を吸収した人達がリーダーとなり、より若い人達の栄養源となることによって、"奉仕の輪"広がっていくのだと思います。

だから、出会いの場をできるだけ多く作り、人とのコミュニケーションを自分の宝にたいのです。

終わりに近づき、ＲＹＬＡセミナーに対する希望として、班の人たちが自由に話し合える時間をもっとふやしてほしいものです。またできれば、年1回といわずに、回数もふやしてほしいです。

最後に、ＲＹＬＡセミナー運営委員会のみなさんに対し、感謝の意で一杯です。ありがとうございました。

～•～•～•～•～•～•～

中　條　輝　宗

私達のグループの中で、教育、人生論、恋愛論、結婚感について、何時間も討議したことが、心に強く残りました。新しい発見をしたり、自分の意見をぶっつけて、したたか反論されたこともありましたが、今、不思議と肩が軽く、心がすっきりしている自分に驚いています。

しかし、教育（学校教育）については、きれい事は言えないと思います。現場は、やはり経験しないとわからないものです。日航のジャンボが長野県の山中に落ち、自衛隊が救助にあたった時、その効果のあがらないことに腹を立てた家族が、「自分で登って見てみよう」と行ったところ、その現状のすさまじ

さに驚き、心の中で、自衛隊が手抜きをしていたのだろうと思っていた気持ちを恥たという。学校教育に不満を感じている皆様も多いだろうと思います。でもわれわれ教師は、全力で子供達に向っているのです。今は効果は見えなくても、いつか期待してくれてもいいという自信はあります。

最後になりましたが、余島でお世話になったロータリアンの皆様、楽しく友情をわかちあった友よ。また会おう！

窪　添　泰　平

来てよかった。本当に。

この余島に来るまでは、どんなところで、どんなことがおこるのか、全っくわからず、妙に不安な気持ちをいだいてやって来ましたが、楽しく有意義な4日間で、あっという間に過ぎてしまいました。

最初は、お互い初対面でもあり、堅くなっていましたので、会話もあまりはずみませんでしたが、レク等で心をひらきあえば、あとはもう夜寝る時間も惜しむほどに、話しがはずんでしまいました。

地域、職業、年令の違う仲間と寝食を共にし、つどい、意見を闘かわせるなかで、普段の生活で得ることのできない貴重な体験をさせてもらうことが出来ました。ここに集まった人達は、人生経験がそれぞれに豊富であり、自分がこれまで知らなかった社会にあることや、物の見方、考えを教えられ、自分の未熟さ、無知さを改めて痛感させられました。

わずか4日間ではありましたが、自分を大いに高めてくれた、このＲＹＬＡセミナー。繰り返しになりますが、本当に来てよかった。

最後になりましたが、このＲＹＬＡセミナーを企画・運営していただいたロータリー並びに、余島野外センターの方々、どうもありがとうございました。

長谷川　勝　好

余島、それはＲＹＬＡにふさわしい島でした。名前一つ取ってみてもそうです。余った島。それは小豆島をとり巻く瀬戸内において、立派に小豆島という本島を引き立たせています。一つの集団においても１人余った人間がいて、はじめてその集団が生きてきます。ある時は、礎（いしづえ）となり、ある時はゆとりとなり、又ある時は壁となる。

この島の素晴しさに、何よりも学ぶものが多かったと思います。その上、更に島の上に、人が人として生きて行くことにふさわしい設備、居住区を取り巻くようにして、人の集まる場所が配置され、どこに行くにも緑と平な道と坂道、つまり、心平安な場と、心配る場とがありといったように。更に、そこに集う人々、文字通り通い合う老若男女が出会い、心ふれ合い、支え合っている。

余島、それはＲＹＬＡにふさわしく、ＲＹＬＡ、それは余島でなければならない。私も余島のように地域で生き続けたい。そして第二、第三の余島を作っていきたい。

又、どこかで集まった人々に会える事を願いつつ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

南　　久　雄

美しい余島、よき人々との出会い、ＲＹＬＡセミナーすべてを空白状態にして、この余島にやってきた。そして、全てが私には新鮮であり、また刺激的であった。余島で過した４日間は、貴重な時間であった。特に、ＣＡＢＩＮ　ＴＩＭその他、友人だちとの語らいの時、〝寝らねばならぬ人間〟であることが、少々うらめしかった。

知り会えた友人たち、カウンセラー、ロータリーの人たちに感謝！

篠　原　慎　吾

「話し合いの時間が、もっと沢山ほしい」今現在、僕の心が欲している言葉です。1班16〜18名から吸収することの何と多いこと。行政、教育、日本などのハイレベルな問題に対し、これだけ筋の通った考えを持っている人がいる。しかも、同年代の人が……。ちょっとしたショックでした。なぜか？　ふだん周囲の人と時間をかけて、論じるという事はないからです。たまたま論議する時間があっても、それは年齢のかなり離れた、経験の深く長い人達とだからなのです。逆に言えば、同年代の人との真剣な討議ができない自分が、自分の周囲の人々が、このＲＹＬＡを終えても、このような真剣に討議ができる仲間を作っていきたいと思います。

このような意識を開花させてもらった、ＲＹＬＡセミナーに提案したいことがあります。年に1回だけでなく、年に数回行ってほしいこ、午前中の講演をやりっぱなしにしないような、創意工夫を求めます。各班入り乱れての話し合いが、フォーラム以外にも持てたらと思います。このような場を与えてもらったロータリアンのみなさんに、感謝いたします。

黒　田　喜　美

3泊4日、美しい自然に囲まれた余島での生活は、有意義なものでした。

まず、参加者の自由意識を尊重したプログラムに、おどろきました。食事の自由、思索の時間、起床、就寝時間の自由など、普段活動している自然の家とは異なったもので、改めてその必要性や意義などを考えさせられました。講義も身近なことを取り上げたもので、興味深く聞かせていただきました。そして班内の親睦、同じような活動をしている人達や、あまり話す機会のない年上の人達と心ゆくまで話しが出来ました。ここにも真剣に生きている人達がいるんだなぁと、心強くもあり、自分ももっと頑張らなくてはいけないと感じました。いろいろここで刺激を受けました。この事を、これから活かしていきたいので

す。

最後に、素晴しい信念を持たれた、このセミナーを開いて下さった、ロータリアン、カウンセラーなどのみなさん、本当に有難うございました。

柴　田　由美子

この4日間のセミナーをとおして、吸収したことは大変多かったのではないかと思います。しかし、それは私自身に、すぐ結果として現れてくるものと、現れてこないものとがあります。たとえ、それが現れるのが何年も後のことであっても、ここでの体験は、素晴しいものでした。

さて、このセミナーの中で、一番感動した事は、18名の新しい仲間と知り会えたことです。ＹＭＣＡの職員、先生、ローターアクトのメンバー、ボーイスカウト出身者、ブロイラー、教育委員会の職員、本屋さん（ただし、普通の店で売っていない本を売っている）。大学生。様々な年齢、異なった考え方を持った人々との出会いは、自分の中の世界を広げてくれました。夜を徹してみんなで生き方、教育観、結婚観、悩みなどについて語りました。それぞれが、意見を出し合い、一生懸命に考えたことは大へん有意義でした。たった4日という短い期間で別れてしまうという事がわかっているので、全員が自分を飾らず、本音で話しをしてくれたからです。ただ、そんな本音の話し合いは、自分の考え、生き方の甘さを痛感させるものとなり、思索の時間にも自分なりに考えてみたりしました。

この18名は、ＲＹＬＡセミナーに参加したおかげで、知り会えました。もし参加していなければ、一生知り会いにはなれなかったでしょう。こうして出会った人々を大切にしていきたいです。

最後になりましたが、カウンセラーの菊沢さん、林さんには大変お世話になりました。特に林さんには、私が体の調子を萌していたために、いろいろと気を使っていただいて大変感謝しています。

高　田　安　美

ちょっとしたキッカケで、ＲＹＬＡセミナーに参加した私だったが、参加してみて本当に良かったと思っている。

短かい４日間の間に、得られた報酬は巨大な物であった。

この島は、人間が人間本来の姿で語りあえる「パラダイス」の世界である。

細かい事を書いていくと切がないが、中でも一番大きかったのは、Ｄ班の人々との出会いである。私はここで、今まで出会ったことがない。今後も出会うことのないかも知れない人と、出会うことができた。

一般の社会では、初対面の人と本音で話し合うなど、ということは中々できないものだが（出来ない事が常識とされているが）、私達のミーティングは本音そのものの、人間本来の姿で話し合えた討論の場だったと思っている。

安　藤　明　美

緑豊かな余島での３泊４日のＲＹＬＡセミナー。

このセミナーで特に感動したのは、すべての時間を規制してしまうのではなくて、朝食をとらないと言う事から始まって、ある程度、個人の自主性を尊重して下さったこと、思索の時間という自己を振り返って見ることのできるような時間を取って下さったことです。この忙しい生活の中で、１人になって、ふと何かを考えるということは、出来るようでなかなか出来ないことです。生活に余裕を持つという意味でも、この事は素晴しい事だと思いました。それに、こうすることで、気分的にとても楽でした。だから昨年は１回しかなかったこの思索の時間を、参加された方の意見を取り入れて２回にしたことは、よかったのではないでしょうか。

また、キャビンタイムで、年齢も仕事もさまざまである班の人たちと、明け方まで遊んだり、話したり出来たことは、何らかの意味で、私にとって役に立ったと思います。沢山の人と出会い、いろいろな事を学ばせていただけたこと

は、非常にありがたい事でした。

このＲＹＬＡセミナーに、参加させてくださったロータリアンの方々や、セミナー中にお世話になったカウンセラー等のみなさま方に、心より感謝いたします。

村　田　晃　子

今、一日一日がとても充実しています。多くの人の心にふれ、沢山の思いや言葉が体の中で息づいています。来て良かったと、すごく思います。

自分から人をさがして、出会いを求めることをせず、いつも受け身的に、ただ偶然を待っていたけど、ここに来て、それではあまりにも、もったいない気がしてきました。偶然を待つのではなく、自分から出会いを求めていく、そして、その出会いを大切にしていきたいと強く思います。

このセミナーの中で、たまたま同じ班員となった18名の方と、明け方近くまで話しをする時が、一番充実していました。みんな、いろんなことにぶつかり、くじけ、それでも精一杯、一生懸命生きているんだなぁと感じ、自分も負けてられないと思ったし、又、これから自分が活動なりしていく中で、この人々が自分にとって大きな支えになってくれるだろうと感じています。

又、きっといつか会える日を、楽しみにしています。

三　上　　展

ン　タタタタタタタ　ンタ　ンタ　ンタタ

ン　タタタタタタタ　ンタ　ンタ　ンタタ

２晩目のキャビンタイム、一昨日まで互いに、全く知らなかったＤ班の私たちは、手に手に割りばしや紙コップを持って、一つの音楽を創り出そうとして

いました。それは、単収なリズムの組み合せにすぎない音楽とは言えない。音を出すという、一見、無意味なばからしい行動でした。それでも、D班全員でそれを音楽にしようとしている一人一人の真空になったような心が、確かに一つになったのを感じた時でした。ライラで過した余島の全ての時の中から、いろいろなものを頂きました。殊にその中で考えた「人との関係を創っていく」という事が、実はこのような素朴な労作に始まるのだ、ということを感じています。

ここで与えられた多くの出会いに勇気づけられて、素朴な小さな努力をしていける者となりたいと思います。

ライラセミナーをお世話下さった皆さん、本当にありがとうございました。

住　友　朋　子

今回、瀬戸内のこんな美しい自然の島・余島で、3泊4日の短かい期間ですが、こうしてＲＹＬＡセミナーに参加させていただいて、本当にうれしく思います。

最初は、ＲＹＬＡの知識もないままに、参加させていただいたのですが、この4日間で、素晴しいものを得たような気がします。

まずは出会い！　余島で初めて出会った仲間達、ひとつの屋根の下で顔をつき合わせ、笑ったり、夜が明けていくのも忘れて、朝まで話し合った時間、心を開いて何でも話せる場所でした。いろんな地域、いろんな職場、大学から来た仲間たち、皆、違った考えを持っています。そんな意見を出し合いながら話し合い、そんな中で、今まで見えなかった広い社会が見えました。明日から、またその社会の中へ帰って行くわけだけど、この4日間で自分が学んだことを見直して、社会の中で、自分のしなくてはいけない事を見つけようと思います。まだまだ学び取った事は沢山ありましたが、一番強く感じたのは、人と人との

出会い、親睦の輪でした。

このセミナーを終えて、講義をして下さった先生方、ロータリークラブの関係者の方々、その他お世話になった方々に感謝し、そして何よりも、4日間一緒に生活し、話し合い、いろんな事を教えてくれた仲間に感謝し、これからもその仲間を大切にしたいと思います。

ありがとうございました。

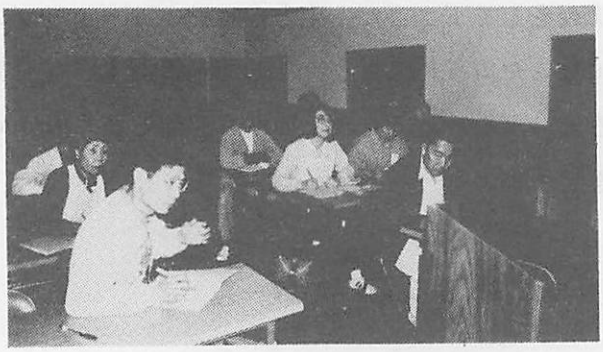
★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

カウンセラー　林　真紀

木々をわたる風に、小島のさえずりと波の音と、余島はまさに人が住む条件をそなえて我々を迎えてくれます。林の中を落葉を踏みしめて歩いていると、人は土と木に囲まれていないと生きていけないんだということを痛感します。海に囲まれ、木々に囲まれライラが開かれました。男8人女7人のD班が、菊沢カウンセラーと共に過した4日間は、皆さんの感想文にありますように、人との出会いを深く考えたように思います。話の上手な人も、苦手な人も、この出会いを大切によい友人を沢山作って、それぞれの地に帰っていかれたことと思います。大人から信頼され、まかせられたところから生まれる、若者のやる気というもの感じます。年齢、性別、職業、住む所と各々ちがうのに、心が一つになっていく不思議さ、ライラならではです。ライラを思い出しますと、1人1人の笑顔を思い出します。にこやかに、そして激しく、おもいやりの深いD班でした。別れがつらいD班でした。このライラを人生の節の一つに、未来を開いていかれることを、心から祈っております。

またお目にかかれる時を楽しみに。

生活の断片

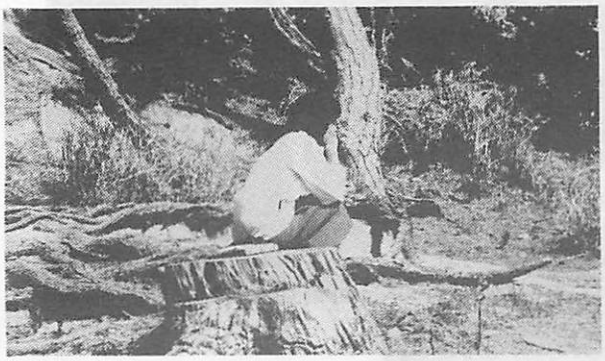


カウンセラーミーティング
カウンセラーも真剣そのもの

オープニングパーティ

もううちとけて……

レクリエーションに陶芸も



思索の時

一人静かに

バズセッション

キャビンタイム
今やたけなわ！

第8回RYLAセミナー運営委員会

顧　問　　梶浦　一（松山）
　　今井鎮雄（神戸西）

R・I第267地区

江藤一明（小松島）　三好恭弘（高知西）
平地保治（小豆島）　伊藤逸夫（東予）
吉本　功（高知東）

R・I第268地区

山本修三（宝塚）　堀　謙治（竜野）
深川純一（伊丹）　宮崎勢四郎（神戸東）
條原慶弘（姫路）

カウンセラー

菊沢建明（伊予）　橋本知詠子
木村公明（小豆島）　関　淑子
東　敬三（神戸東灘）　嘉納　洋
三木　明（姫路）　林　真紀
武貞延也（神戸西）

昭和61年4月3日～6日

主　催　R．I第267地区
　　R．I第268地区

RYLA運営委員会

開催地　西日本青少年野外活動センター
（神戸YMCA余島センター）